

13. 南アフリカ共和国・農村開発と小規模農業経営改善コース（第1回）

1. コース名等

1) 和文・英文によるコースの名称

(和文) 農村開発と小規模農業経営改善

(英文) Rural Development and Small Scale Farm Household Management

2) 研修期間

平成6年11月7日から平成6年12月17日まで

3) 受入人数

5名

2. コースの目的・背景

1) コースの目的：

南ア黒人農業者の経済的自立促進に携わる政府系職員及びNGO関係者に対し、地域諸資源の有効利用、生産に従事する農業者の主体的な運営組織の育成及び農業開発における基本的諸条件の整備に関し、幅広い知識・技術を提供することにより、域内農村開発・小規模農業経営改善の企画立案・実践的指導の効率的な推進に寄与することを目的とする。

2) 設立年度及び経緯

1991年度に開始された南アフリカ特設コースは本年度4回目を迎えるが、野菜栽培を中心とした技術習得型研修であった。農村開発手法に特化したコースの開設要望が強く、本年度は、技術コースの「農村開発のための低投入型野菜栽培」と並行して、本コースを実施することとした。

なお、本コースは当センターで実施するが、講師は全て外部講師で対応し、研修監理員を1名配置して実施した、いわゆる直轄コースである。

3. 到達目標

- 1) 農民の組織化と人材育成の重要性が理解でき、自国での組織化推進に貢献できる。
- 2) 農業開発に必要な制度的諸条件が理解でき、その整備促進に貢献できる。
- 3) 農村開発計画策定に必要な基本的知識・技術の体系が理解でき、関連業務に適用できる。

上記の研修項目について、理解と応用力を講義で養い、かつそれらを実践的な知識とするために研修旅行を実施する。

4. 研修担当スタッフ

「栽培・農業開発班」の職員・研修スタッフが担当（資料3参照）。

5. 受入れ研修員名簿

平成6年 南アフリカ農村開発と小規模農業経営改善コース研修員名簿 (研修期間1994年11月7日～12月17日)

No.	Name (呼称名)	Age (年齢)	Present Post (現職)	Remarks (備考)
1	Ms. Ester KOSTER (エステ)	30	Development Officer, Department of National Health and Population Development (保健人口開発省開発オフィサー)	
2	Mr. Bonga D. MSOMI (ボンガ)	29	Agricultural Scientist, Department of Agriculture, Kwazulu-Natal (クワズール・ナタール州農林局農業科学者)	
3	Mr. Maben Ben MAHLANGU (ベン)	31	Specialist in Economics Department of Agriculture and Environmental Affairs Eastern Transvaal (東部トランスバール州農業環境経済専門家)	
4	Mr. Mbana Peter THABETHE (ピーター)	28	Agricultural Advisor Department of Agriculture and Environmental Affairs Eastern Transvaal (東部トランスバール州農業環境局農業指導官)	
5	Mr. Raymond Lionel MORSE (レイモンド)	35	Assistant Director, Non-Formal Training Lowveld Agricultural College (ロウヴェルド農業大学非公式訓練アシスタントディレクター)	

6. 研修項目と研修実績

1) 研修課題骨子

- ① 農民の組織化と教育
- ② 農業普及活動
- ③ 農業金融制度
- ④ 流通体制の整備
- ⑤ 農業開発
- ⑥ 農村開発
- ⑦ NGOの活動

2) 研修実施方法

実践的な知識・技術とするため、事例研究を中心とするが、可能な限りディスカッションの時間を設け、研修員の問題解決能力を高めるとともに、自国の自然、社会及び経済条件に適合する開発計画の策定に貢献できる応用力を養うことに努める。また、日本農業の事例研究の一環として国内関係機関の見学を行うこととする。

研修終了時には、自国の農村開発と小規模農業経営改善に係る問題点と対応策をテーマとした小レポートを提出させ、これをもって研修成果品とし、併せて研修評価の資料とする。

3) 研修実績表

(11月)

日	曜	午 前				午 後				備 考
		記	項 目	担当	補助	記	項 目	担当	補助	
1	火									
2	水									
3	木									
4	金									
5	土									
6	日									
7	月	来日								TIATC
8	火	ブリーフィング				ブリーフィング				TIATC
9	水	オリエンテーション				オリエンテーション				TIATC
10	木	同 上				同 上				TIATC
11	金	同 上				同 上				TIATC
12	土	同 上				同 上				TIATC
13	日									TIATC
14	月	開講式		スタッフ		コースオリエンテーション		スタッフ		TIATC
15	火	個別面接		スタッフ		カントリーレポート発表		スタッフ		TIATC
16	水	L 農民の組織化		阿部	L	同 左		阿部		TIATC
17	木	L 貧困対策Ⅰ		米坂	L	同 左		米坂		TIATC
18	金	L 貧困対策Ⅱ		米坂	L	WID		古谷		TIATC
19	土									TIATC
20	日									TIATC
21	月	L NGOの活動事例Ⅰ		JVC	L	同 左		JVC		TIATC
22	火	L 小規模農村開発		大橋	L	同 左		大橋		TIATC
23	水	休日				休日				TIATC
24	木									TIATC
25	金	L 研修手法		北中	L	南ア農業の現状と展望		佐藤		TIATC
26	土									TIATC
27	日									宇都宮
28	月	L 野菜の流通システム		王城	T	野菜の流通システム見学		王城		宇都宮大学
29	火	L 産地における農民組織活動		津谷	T	イチゴ農家等見学		津谷		宇都宮大学
30	水	T 農民の活動実態見学(ヤサイ)		宇佐見	T	農民の活動実態見学(ハナ)		宇佐見		宇都宮大学

(12月)

日	曜	記	午 前			午 後			備 考	
			項 目	担当	補助	記	項 目	担当		補助
1	木	L	農業技術開発	菊池		T	県農試・普及所見学	菊池		宇都宮大学
2	金	L	農業協同組合の金融制度	泉田		T	農協見学	泉田		宇都宮大学
3	土	T	アジア学院	ｽﾀｯﾌ			同 左	ｽﾀｯﾌ		栃木
4	日									TIATC
5	月		レポート作成説明	ｽﾀｯﾌ			レポート作成	ｽﾀｯﾌ		TIATC
6	火	T	関西・広島研修旅行	ｽﾀｯﾌ		T	関西・広島研修旅行	ｽﾀｯﾌ		OUT
7	水	T	同 上	ｽﾀｯﾌ		T	同 上	ｽﾀｯﾌ		OUT
8	木	T	同 上	ｽﾀｯﾌ		T	同 上	ｽﾀｯﾌ		OUT
9	金	T	同 上	ｽﾀｯﾌ		T	同 上	ｽﾀｯﾌ		OUT
10	土									TIATC
11	日									TIATC
12	月		レポート作成	ｽﾀｯﾌ			レポート作成	ｽﾀｯﾌ		TIATC
13	火		レポート発表 (合同)	ｽﾀｯﾌ			レポート発表 (合同)	ｽﾀｯﾌ		TIATC
14	水		ファイナルレポート作成	ｽﾀｯﾌ			評価会	ｽﾀｯﾌ		TIATC
15	木		閉講式	ｽﾀｯﾌ			帰国準備			TIATC
16	金		帰国準備							TIATC
17	土		離日							TIATC
18	日									
19	月									
20	火									
21	水									
22	木									
23	金									
24	土									
25	日									
26	月									
27	火									
28	水									
29	木									
30	金									
31	土									

4) 講義の題目、講師名、単位数

講 義 題 目	講 師 名	所 属 先	単 位 数
農民の組織化	阿部 幸男	アジア農業協同組合振興機関 調査役	2
貧困対策	米坂 浩明	IC NET 代表	3
WID	古谷 典子	JICA企画部環境・女性課 Jr.専門員	1
NGOの活動事例	柴田 久史	JVC (日本国際ボランティアセンター) 南ア担当	2
小規模農村開発	大橋 正明	恵泉女学園大学 専任講師	2
南ア農業の現状と展望	佐藤 誠	立命館大学国際関係学部 教授	1
野菜の流通システム	玉城 昌幸	宇都宮大学農学部農業経済学科 教授	1
産地における農民組織活動	津谷 好人	〃 〃 助教授	1
農民の活動実態	宇佐美 繁	〃 〃 教授	1
農業技術開発・普及	菊地 重雄	〃 〃 講師	1
農業協同組合の金融制度	泉田 洋一	〃 〃 助教授	1
研修手法	北中 真人	筑波国際農業研修センター	1
合 計			17

5) 研修旅行の視察先と研修内容

地域	期間	視察先	主な研修内容
栃 木	11月28日 (半日)	宇都宮公設卸売市場	野菜・果実の卸売と流通
	11月29日 (半日)	宇都宮近郊農家	農協と農家のかかわり
	11月30日 (半日)	宇都宮近郊農家	農家の活動状況
	12月1日 (半日)	県農試・普及所	農業研究・普及体制
	12月2日 (半日)	今田市農協	農業金融制度
	12月3日 (1日)	アジア学院	有機栽培と農業研修
関西・広島	12月6日－9日 (3泊4日)	京都府農業試験場	試験概要と施設見学
		タキイ種苗(株)	種子生産
		広島県能美島	花き栽培
合計	15単位		

6) 研修教材

① JICAテキスト

-Women in Development-JICA's Programs and Activities (JICA)

② 研修先テキスト

-Agricultural Cooperative Movement in Japan (Y. Abe)

-NGOs in Bangladesh and Japan (M. Ohashi)

-Role of Finance in Rural Development and Agricultural Cooperative Banking (Y. Izumida)

③ 市販テキスト

なし

④ その他の参考資料

- Agricultural Cooperatives in Japan (IDACA)

- Model By-Law of Agricultural Cooperative Society (IDACA)

- KOKORO JANIC (The Newsletter of the Japanese NGO Center for International Cooperation)

March 1994 Vol. 6 No. 1

- "Can the Grameen Bank be Replicated? -Recent experiments in Malaysia, Malawi and Sri Lanka (David Hulme)

Development Policy Review, Vol. 8 (1990), 287-300

- Outline of Cooperative Agricultural Extension Service in Japan (MAFF)

- The Role of Farmers' Organizations in an Effective Credit Delivery System -
Agricultural Cooperatives in Japan (Y. Izumida & T. Yurugi) APO Seminar on
Transaction Costs of Farm Credit
- The Kou in Japan: A Precursor of Modern Finance (Y. Izumida), 1992.
"Informal Finance in Low-Income Countries"
(Edited by D. W. Adams & D. A. Fitchett), Westview Press
- Development of Rural Financial Markets in Sub-Saharan Africa -
Lessons of Successful Experiences in Asian Countries (F. Egatsu & Y. Izumida)

7. 研修の評価

1) 研修員による評価

研修計画（プログラム、講義、見学）：

- 項目の配列を日本の農業、アジアでのケース・スタディ、南アでの適用の可能性探究という順序にする。(Este, Peter, Ray)
- 講義の配列及び時間配分を以下のようにする。NGO 1/2 日、小規模農村開発 2 - 3 日、WID 1/2 - 1 日、農協組織 2 日、貧困対策 3 - 4 日 (Bonga)
- 一日の講義時間はもっと長くてもよい。(Este)
- 講義を通じて期待の70-80%の情報収集ができた。(Ben)
- レジユメは予習ができるように数日前までに配布してもらいたい。(Ben, Ray)
- 各講義の最後の部分を解決策を探るためのブレインストーミングの時間とし、司会役を研修員から選ぶ。(Ray)
- 貧困対策、小規模農村開発、農協組織、農協の金融制度等の講義は大変役に立った。(Este, Ben, Peter, Ray)
- 直接現場に触れるという点では、講義とその関連現場見学という構成の宇都宮での研修は有益であった。(Peter)
- 農民支援プログラムについての講義を1単位もうけ、いかに農協組織を立ち上げるかについて触れる。(Ray)
- 農業大学校での農業後継者育成についての講義が必要。(Peter)
- NGOの講義は特定の団体 (JVC) の活動についてのみであり、しかも例として挙げられた2つの共同体は不適當だった。(Bonga, Este)
- 講師陣の南アに対する誤解や知識の無さは問題である。(Banga, Ben)
- 講師の英語力不足による相互理解の不達成は深刻な問題である。(Este, Ben, Ray)
- 研修旅行・見学・農民および農業改良普及員との対話等に全体の70-80%を当てるべきである。(Bonga)
- 農業研究・普及に関して、国及び県の政策決定機関、研究機関および普及機関の訪問が必要である。(Este)
- 農家へのホームステイ・プログラムによる農民との直接接触が必要。(Ray)
- 農民との直接対話・情報交換が有効。(Ben)

研修旅行：

- 引率者のうち少なくとも一人は通訳ができ、見学先について知識のある人間であるべきである。広島・関西旅行では通訳の不備のため、必要な情報収集ができなかった。(Este, Ben, Ray)

- 広島・関西旅行では常に荷物を持ち歩かなければならず、大変煩わしかった。備上バスの使用またはホテルに預けて出かける等の方策が必要である。(Bonga, Peter, Ray)
- ラッシュ・アワーの混雑した列車に乗るのも日本での経験のひとつとして楽しんだ。(Peter)
- 少額交通費が直接自分達宛に振り込まれており、その都度自分で払うという点について事前の説明が徹底しておらず、少なからず戸惑った。(Ben)
- 原爆資料館（平和公園）見学は研修目的と直接関係が無く、不適當である。(Ben, Bonga)
- 原爆被災について知ることは大変意義深く、得がたい機会だった。(Este, Peter, Ray)

コース管理について：

- すべてが非常に良く計画されていた。(Ray)
- 移動や旅行前には必ず詳しい説明と情報提供があったのであれこれ思い悩まずに済んだ。(Este)

その他（JICAへの要望）：

- 帰国研修員のアフターケアと活用 (Peter)
- 日本の農業改良普及員、農協職員、農民を現地視察のため南アに派遣、南アの農民リーダーを2週間ほどの視察旅行（口答発表による意見交換を含む）に日本に招く。(Bonga)
- コース担当者は南アフリカ訪問により、小規模農民の研修ニーズをつかみ、研修をより適用性の高いものにすべきである。
- 日本及びアジア各国の開発プログラムを知るには良い機会だったが、南アフリカに対して的確なアドバイスをするには、講師にわが国に関する知識が欠けていた。言語障壁の問題が大きかった。
- 本研修は国際社会がいかに発展途上国の援助にかかわっているかを知るのに有益であった。また日本という全然異なる文化を知り、国民の均一性を理解することができた。
- 有益な情報を収集するのに良い機会だった。講義は刺激的で農村開発に関する視野を広げた。解決すべき問題は以前より増えたが、このことは発展が可能だということの意味する。時としての言語問題を除いてはコースはうまく運営されていた。

注：マンスリー・レポートおよび講義評価シート記載事項も含む。

2) 研修員による評価集約結果

項 目	内 容	集計 (%)
1. Subject	too broad	3 (60)
	about right	2 (40)
	too narrow	— (0)
2. Level	too advanced	— (0)
	about right	1 (20)
	too elementary	4 (80)
3. Depth	too deep	— (0)
	about right	2 (40)
	not deep enough	3 (60)
4. Logical order	good	0 (0)
	fair	5 (100)
	poor	0 (0)
5. Relationship of each topic	good	1 (20)
	fair	3 (60)
	poor	1 (20)
6. Balance of time allocation	good	2 (40)
	fair	2 (40)
	poor	1 (20)

3) センタースタッフによる評価と反省

① 研修計画

ブリーフィング・オリエンテーションに引き続き、コース・オリエンテーション、カントリーレポート発表、6つのテーマについての講義の後、宇都宮大学農学部で日本の現状に講義と見学を通じて触れた。アジア学院見学、広島・関西への研修旅行、研修レポート作成・発表、評価会、閉講式でプログラムを構成した。目的に沿った良い計画だったが、今後農水省の研究所訪問を加えることも可能であろう。

② 研修形態

セミナー形式で、講義・見学を通じて情報収集・意見交換が計られた。得られた知験をより深めるために、討論の時間ももっと必要だというのが研修員の統一の見解だった。本コースのようなソフト分野を中心としたコースでは、事前に講師等と打合せを密にし、講義の進行方法について確認しておく必要がある。

③ 期間 ④ 密度 ⑤ 配列

各課目の配列には問題はないが、セミナー形式としては41日間はやや長いかも知れない。

⑥ 講義

研修目的との関連が不明確かつ講師の準備不足の講義があった。

⑦ 教材

各講師が準備した講義レジュメと参考資料が使われたが、これらが事前に研修員に配布されることが少なかったため、余り有効とは言えなかった。初年度の今回はある程度仕方がないが、次回からは事前配布を徹底させる必要がある。

⑧ 交通手段

通常の研修のための移動には、センターのバス、備上ハイヤー等を使用し極めて円滑であった。

⑨ 厚生・食事

各種厚生行事は好評で、特にJICAカップサッカー大会・筑波山登山を楽しんだようだ。TBICで供される食事の内容については余り満足していない。

⑩ プリーフィング、オリエンテーション

日本全般についての情報に触れる良い機会として極めて好評である。

4) 改善・検討すべき課題

- ・南アフリカ農業、特に農村部の現状について情報を収集し、カリキュラム作成、コース運営に反映させる必要がある。今回のコース・カリキュラムは農村開発分野としては、妥当と思われるが、講義内容等が一般的になりがちであり、やはり現地事情を踏えた、研修ニーズの正確な把握の重要性を認識した。
- ・当該分野では、討論の時間を十分に設け、研修員の問題解決能力を高める努力が必要であり、講義の中ではもとより、新たに討論の時間を毎週設ける等の工夫が検討されるべきであろう。
- ・また、レジュメの事前配布は基本的事項であり、徹底するべきである。
- ・農村開発をテーマとすれば、農業関連分野をベースにWIDの他、他産業の振興、教育、保健問題等の社会開発分野の課題ももう少し取り入れる方向が望ましい。

第3章 個別研修コース研修報告

平成6年4月から農業分野の個別研修員の受入れ業務が、当センターに業務移管されたことは第1章で述べたとおりであるが、そのため、本年度の個別研修員の受入れ数は、前年度と比較できないほど増加した。

本年度の個別研修員の受入れ数は、平成5年度に来日した56名（継続）と平成6年度に来日した243名（新規分）を合わせ、計299名に達した。

本報告では、新規個別研修員243名について研修概要を報告する。

なお、新規個別研修員一人ひとりの研修科目、研修期間等の詳細は、第4章の資料11のとおりである。

1. 受入れ国、研修分野及び受入れ形態

1) 受入れ国

個別研修員を41ヵ国から受入れた。国別で見るとカンボディアからの研修員が28名と最も多く、これは国別特設2コースとして24名を受入れたことによる。

地域別では、アジア62.6%、中南米18.5%、アフリカ14%、中近東4.5%、東欧0.4%となっている。

2) 研修分野

研修分野をJICAの分野分類コードによる農業分野の小分類で見ると、農業一般60.9%、農業土木25.1%、農産加工1.2%、養蚕2.5%、農業機械3.7%、食糧増産援助6.6%となり、農業一般と農業土木が全体の86%を占めた。

そして、地域と研修分野の関係を見ると、アジア地域に対しては各分野の研修が総合的に行われたのに対し、中近東地域では農業土木分野の研修が50%、中南米地域では農業一般分野の研修が78%とそれぞれ比率が高かった。このことより、むしろデータ数が少ないため断定はできないが、中近東地域では灌漑排水を中心とする農業土木技術に対するニーズが高く、中南米地域では特に野菜栽培を中心とする栽培技術に対するニーズが高いことが裏付けられると言えよう。また、アフリカ地域においては農産加工、養蚕、食糧増産援助を除けばアジア地域と同様の傾向があった。

3) 受入れ形態

(1) 分類結果

個別研修には様々な受入れ形態がある中、平成6年度の研修は5形態（カウンターパート、国別特設、個別一般、国際機関、東欧支援）に全ての要請が分類され、その比率はカウンターパート81.1%、国別特設9.9%、個別一般3.3%、国際機関5.3%、東欧支援0.4%であった。

そのうち、国別特設、国際機関、東欧支援として、次の研修を実施した。

- ①国別特設　カンボディア特設2コース（農村開発及び農薬安全使用）
- ②国際機関　南アフリカ特設2コース（農村開発及び野菜栽培技術）
- ③東欧支援　ルーマニア・ブランチャ県北東部地域灌漑整備計画

(2) カウンターパート研修

受入れ形態の81.1%におよぶカウンターパート研修は、当センターが受入れる個別研修の大部分を占めていることから、今後の研修の効果的実施に向け、プロジェクト並びに個別派遣専門家の担当原課との協体制を、さらに積極的に整備していくことが重要となっている。具体的には、要望調査票の充実、研修計画作成の際の担当原課を通しての専門家との意見交換、研修成果のプロジェクトサイトへの報告、帰国後の研修効果の聴取等であり、これらは、今後の農業分野の技術協力の促進に際し、研修事業の一層の効率的な実施の観点から、関係事業部とも早急に検討を開始しなければならないテーマである。

2. 研修員受入れ担当原課

担当原課別の個別研修員（継続・新規）の受入れ人数は、第18表のとおりである。

農業技術協力課所掌のプロジェクトからの研修員（新規）が91名と最も多く、次いで畜産技術協力課37名、農業開発調査課27名となっている。また、派遣1～3課所掌の研修員は31名であった。

なお、研修1～3課所掌の研修員が47名含まれているが、これらは個別一般及び特設コースの形態で受入れられた研修員である。

前述したが、研修実施における担当原課との協体制の強化については、今後ともこれらの部・課、特に農業技術協力課、畜産技術協力課、農業開発調査課との連携が最優先となろう。

第18表 個別研修員の担当原課別受入れ数

担 当 原 課	個別研修員受入れ数		
	継 続	新 規	合 計
農業技術協力課	29	91	120
畜産技術協力課	11	37	48
農業開発調査課	1	27	28
研修第一課	0	27	27
研修第二課	0	3	3
研修第三課	0	17	17
業務第一課	1	2	3
業務第二課	2	5	7
派遣第一課	5	10	15
派遣第二課	3	13	16
派遣第三課	2	8	10
社会開発協力第二課	1	2	3
青年海外協力隊事務局	1	1	2
合 計	56	243	299

3. 受入れ機関

個別研修員を受入れた機関は、第19表のとおりである。1件の研修日程の中で複数の機関にまたがり研修を実施したケースも多く存在するが、便宜上主要な機関を1つ選び集計した。

農業分野研修の性格を反映して、農水省に研修を依頼した案件が最も多く、125名（51.6%）を占めた。次いで、当センターが直接の研修実施機関となった案件が62名（25.4%）に上った。また、文部省関連とは大学の研究室での受入れ、同様に厚生省（1名）は国立衛生試験所（ブラジル「薬用植物」）、労働省（1名）は職業訓練校（カンボディア「地域開発計画」）、都道府県（6名）は農業試験場、民間企業（16名）はコンサルタント会社や農機具メーカーでの受入れであり、他JICAセンターとは集団研修コースに参加したことを示す。

カンボディア国別特設研修（24名）については、農水省に実施を依頼した部分も大きかったが、ここでは当センター実施の中を含めた。

第19表 研修員受入れ機関

機 関 名	研修員数	割合 (%)
筑農セ	24	9.9
集団コース		
特設・C/P合同	38	15.6
他JICAセンター	12	5.0
農 水 省	125	51.4
文 部 省	20	8.2
厚 生 省	1	0.4
労 働 省	1	0.4
都 道 府 県	6	2.5
民 間 企 業	16	6.6
合 計	243	100.0

4. 受入れ手続き

1) 研修開始月

各月別の研修員の来日状況は、図3. のとおりである。

ここでは、JICAの集団・特設・合同コース（研修開始日が当初計画段階から決定されていたもの）に参加した研修員（図中白ヌキ）と、それ以外の単独の個別コース（相手側の希望を考慮しつつ開始日を調整したもの）に参加した研修員（図中黒）に分け作図を行った。

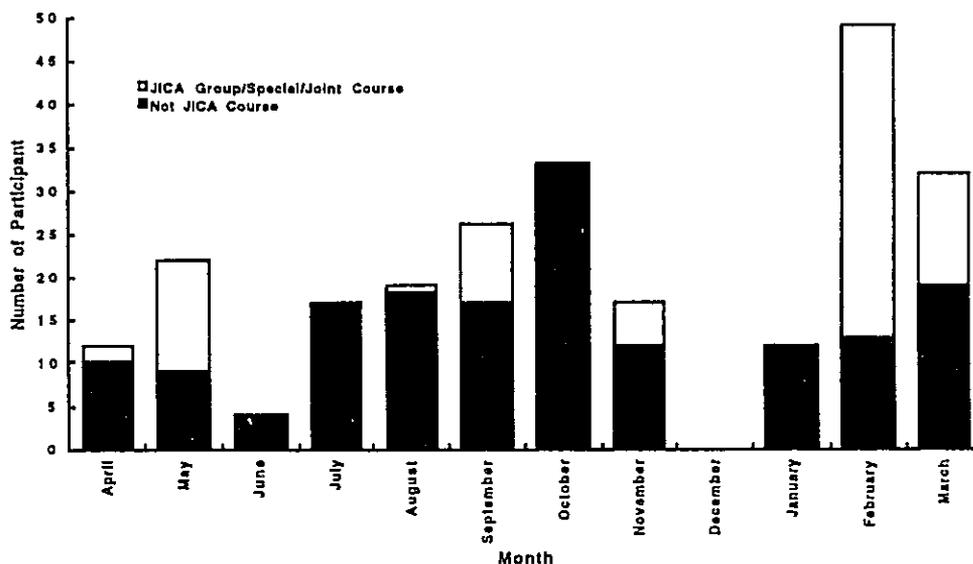


図3. 月別来日状況

(1) JICAの集団・特設・合同コースへの参加（図中白ヌキ）

農業分野の集団研修コース（特に当センター所管のコース）の多くが春期に開始されることに連動して、2月～5月に来日が集中する傾向があり、特に、月間の来日数が2月～3月にピークを迎える要因となっている。

(2) それ以外の単独の個別コースへの参加（図中黒）

月別の月間来日数は、変動が大きかった。特に10月の来日は、他の月の約2倍であった。

また、12月に来日する研修が皆無であったことは、年末年始の休暇中に研修が実施できないことを避けての結果であると考えられる。

5. 研修内容

1) 研修期間

研修期間を月数で分類し、その分布傾向を調べた結果は、図4. のとおりである。

JICAが実施する集団・特設・合同研修とその他の研修を色分けし分類表示した。

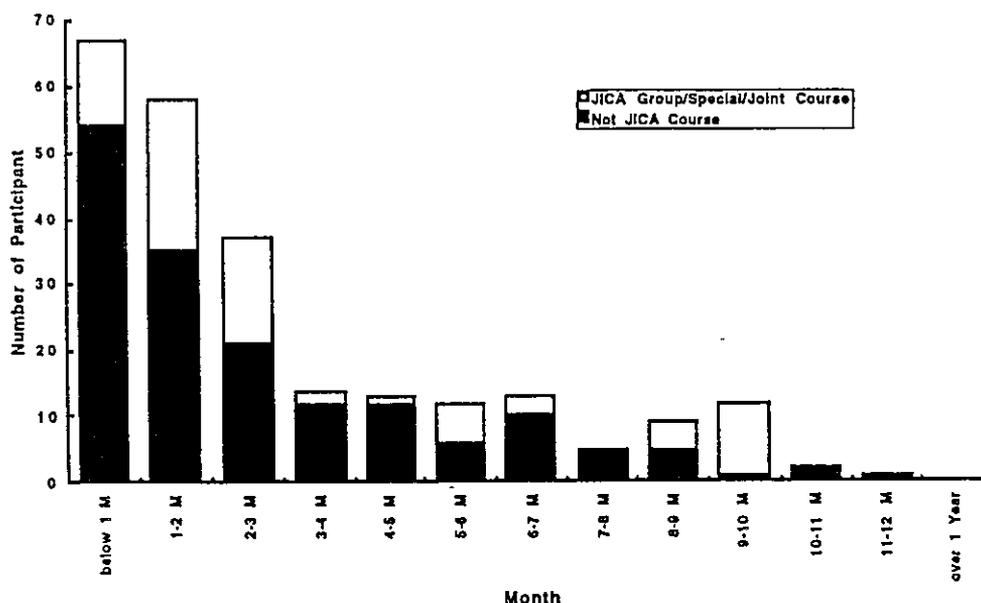


図4. 研修期間別受入れ状況

1ヵ月以内の研修が最も多く、研修期間が長くなるに従い研修の数も減少する傾向が見られた。1ヵ月以内の研修とは、一般的に見学を中心とした視察研修であり、視察研修の比率が非常に高いといえる。また、3ヵ月以内の研修が大部分を占めた。

平均滞日日数は92日と算出された。

2) 視察研修

視察研修は、文字どおり研究所・事業所・メーカー等の見学を中心とした研修形態で、様々な事業の実施状況を見聞する中から現地の事業実施に必要な知識の習得を目指すものである。当センター所管の個別研修においては、特に農業土木分野（灌漑排水等）の研修にこの視察形態の比率が高い。

視察研修は、通常3週間程度の短期間の研修期間で実施され、また、1ヵ所の研修先当たりの研修期間も半日～3日と短いため、研修評価や次年度計画に必要となる情報を収集しにくい傾向がある。当センターでは、必ずしも全てではないが、視察研修参加の研修員に対し日報（見学先毎の研修レポート）の提出を促し、評価資料とした。

3) 技能研修（集団研修参加を除く）

技能研修については、個別研修員の受入れ形態により研修の性格が異なるため、以下に形態別の概要を示す。

当センターでは、個別研修員に対し月報（Monthly Report）の提出を促し、評価資料とした。

(1) カウンターパート

カウンターパート研修員は、現地専門家の技術移転のための補完的な（現地では移転が困難な技術を補う）研修の実施を目指した。

－プロ技協－

プロジェクト担当原課により年間（もしくはプロジェクト実施全期間）の研修計画が策定されており、計画に沿って研修を実施した。

研修受入れ先も現地専門家の本邦所属先を中心に研修することが多く、研修内容もプロジェクトより提出される要望調査票に沿って検討されることが多いため、現地で必要とされている技術の補完研修を念頭に研修を実施した。

－個別派遣専門家－

派遣事業部の年間の研修に沿って研修が行われた。

研修受入れ先は、要望調査票記載の研修希望内容に沿って計画された。専門家に本邦所属先がある場合は、研修希望先が特定されていることも多いが、研修希望先が特定されていない場合は、当センターが農業分野専門研修センターとしてのノウハウを投入し研修先を開拓した。

いずれにおいても、要望調査票記載の研修希望内容及び希望研修先が、効果的な研修計画策定に果たす役割は大きい。要望調査票への記載内容のさらなる充実を図り、必要であれば要望調査票の様式を改訂することにより、本邦におけるカウンターパート研修の一層の充実を図ることができよう。

(2) 国別特設

国別特設コースについては、カンボディアに対するコースを2コース実施した。事前に「カ」国の農村開発大臣が当センターを来訪する機会に恵まれ、同大臣と現地の適正技術について意見交換を行い、研修カリキュラム作成の参考とした。

－カンボディア「農村開発」－

12名の研修員を受入れた。農業基盤整備、地域開発論、農協・農業金融等の内容に、農業改良普及所等の視察を取り入れて実施した。

－カンボディア「農薬安全使用」－

12名の研修員を受入れた。農薬検査に係る講義・実習、環境問題、開発・登録制度、安全対策を中心に研修を実施した。

(3) 国際機関

UNDP（国連開発計画）との協調による国際機関タイプII研修として、過去3カ年にわたり南アフリカの非白人研修員を受入れ、主に野菜栽培技術の研修を実施してきたが、本年度は以下の2コースを所管した。

終了時には、両コースの合同により、帰国後の地域活動計画レポート発表会を行った。

また、本年度で南アフリカの農業研修は4回目を迎えるため、南アフリカの農業事情を、研修員のレポートを中心とし内外の資料を参考に「南アフリカの農業」として小冊子にとりまとめ、今後の効果的な研修実施のため関係者に配布した。今回の小冊子のように国別特設形態コースの継続実施により、同一国同一分野の研修員からの情報が毎年蓄積され、それをとりまとめることにより、他にないJICA独自の国別一分野別情報を得ることができると考えられる。

－南アフリカ「農村開発のための低投入型野菜栽培」－

前年度まで3カ年にわたり実施してきた野菜栽培技術の研修コースを、本年度は、さらに南アのホームランド地域の適正技術に内容を絞り、低投入型野菜栽培技術に改編し実施した。

当センターが研修実施機関となり、研修内容の計画から実習にわたりコース運営を行った。

－南アフリカ「農村開発と小規模農業経営改善」－

農村開発手法のためのセミナー形式の研修として、一部宇都宮大学の協力を得て実施した。

(4) 個別一般

8名の個別一般研修員を受入れたが、移管通報時期が年度後半に集中したことを除けば、問題なく研修を実施した。

4) カウンターパートの集団研修参加

集団研修コースは、特定分野の体系的な（基礎～応用）技術の習得を目的としたカリキュラム編成になっている。したがって、個別研修員の研修希望内容と参加集団研修コースの内容が合致する場合には非常に効果的な研修となり得るが、現地専門家よりすでに技術移転が行われている場合、本邦研修の全期間の内容が要請と合致しない可能性がある。特に、当センター所管の集団研修コースは長期に渡るため、期間の短い個別の研修カリキュラムを計画する方が、効率的に研修を実施できる可能性があるかを検討する必要がある。

5) カウンターパート合同研修

要請の内容が共通する複数のプロジェクトからの研修員をグループにまとめ、3コースのカウンターパート合同研修を実施した。

(1) 農薬安全使用体制整備（農薬合同）コース

無償資金協力業務部が実施する食糧増産援助計画のカウンターパートに対し農薬使用法のための研修を合同で実施した。5ヵ国から6名の研修員が参加した。

(2) 灌漑排水合同コース（2コース実施）

各地の農業水利事業の視察を中心とする研修を、要請内容ならびに研修開始希望時期が共通する研修員をグループ化し実施した。2コースに5ヵ国から6名の研修員が参加した。

6) その他

平成6年度（継続）コースとなった「ペルー・野菜生産技術（西語）」コース（野生生産技術センターC/P合同）に、途中参加としてドミニカ共和国のカウンターパート研修員1名を受入れ西語で研修を実施した。

6. 研修員の年齢構成

研修員の年齢構成は、図5. のとおりである。

30歳代の研修員が約半数を占めたが、年齢の構成には大きなばらつきがあった。当センターの研修員が高級・準高級の研修員をのぞく一般研修員であったことを考えると、40歳以上の研修員の割合が38%と比率が高かったことは、今後の検討課題の一つとなろう。

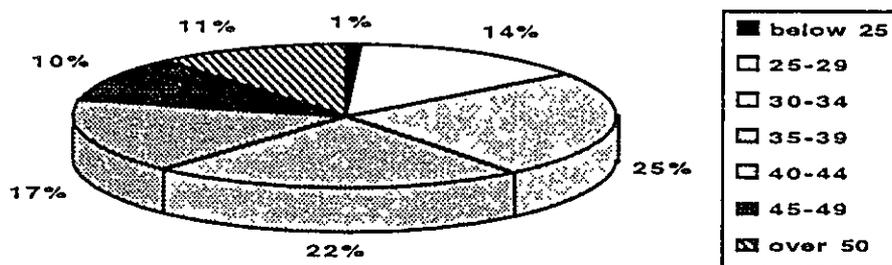


図5. 個別研修員の年齢構成

7. センター／支部移管

他センター・支部への業務移管についての実績は、第20表のとおりである。

平成6年度内の移管は、延べ61名（実数55名）の個別研修員について、11センター・支部に対し行われた。

また、東京国際研修センター所管集団研修コース参加、野菜茶業試験場（三重県）での研修、広島大学・岡山大学・鳥取農業試験場等での研修により、東京国際研修センター、名古屋国際研修センター、中国支部それぞれへの移管が比較的多かった。

第20表 他センター・支部移管実績（平成6年度新規分）

センター／支部	移管タイプ	研修員数	移管期間（日）	平均期間（日）
東国セ	B	8	633	79
八王子セ	B	1	59	59
名古屋セ	B	8	603	75
大阪セ	B	3	179	60
九州セ	B	7	350	50
	C	1	22	22
沖縄セ	B	4	422	106
北海道支部	B	7	618	88
東北支部	B	5	363	73
北陸支部	B	3	159	53
中国支部	B	8	714	89
	C	1	19	19
四国支部	B	5	268	54
計		61	4,409	72

（注）B移管：地理的理由等により、研修の全期間またはその一部（10日間以上）を他センター・支部に移管して実施すること。

C移管：福利厚生等の側面的支援を目的として、研修の全期間または一部（10日間以上）を他センター・支部に移管すること。

8. 評価方法

研修評価の効果を高めるため、以下の資料を独自に作成し評価資料とした。

また、カウンターパート研修におけるプロジェクトへの情報のフィードバックを充実させるべく、研修実施報告書を試行的に現地事務所あるいはプロジェクト宛送付した。平成6年度は一部プロジェクトへの送付にとどまったが、平成7年度は規模を拡大し、本邦研修と現地プロジェクトにおける技術移転計画との整合性を高めるため、現地との連携の強化につとめることとしている。

(1) マンスリーレポート

研修員の月毎の研修内容・印象深い科目・問題点提起等をマンスリーレポートを通じ研修員から聴取し、研修評価資料とした。また、本レポートは、研修実施上の問題点を把握する手段としても活用された。今後、このマンスリーレポートを現地プロジェクトに送付することにより、プロジェクトの技術移転計画のための参考報告資料として大いに活用されることが期待される。

(2) デイリーレポート

個別研修形態の多くの割合を占める視察研修（短期滞在型研修）の評価資料とするため、(見学先毎の) 日報を活用し、評価資料が少なくなりがちな視察型研修の評価資料とした。平成6年度は一部の視察型研修に導入したが、平成7年度は範囲を広げて導入することを計画している。

(3) その他

受入れ先研修実施報告書、研修監理員報告書、クエスチョネアー、JICA研修実施報告書を研修評価資料としている。

第4章 資料編

1. 平成6年度見学者等実績
2. 平成6年度筑波国際農業研修センター関連表彰状等授受者
3. 平成6年度筑波国際農業研修センター職員・研修スタッフリスト及び担当業務
4. 平成6年度JICA農林水産業関係国内委員会の委員委嘱状況
5. 平成6年度筑波国際農業研修センター施設概要
6. 筑波国際農業研修センター集団研修コース変遷系統図（1995年3月31日現在）
7. 平成6年度筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数
8. 筑波国際農業研修センター集団研修コース別・年度別研修員受入れ数（1961～1993年度）
9. 筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数（1961～1993年度）
10. 平成6年度筑波国際農業研修センター個別研修員分野別・受入形態別・国別受入れ実績
11. 平成6年度筑波国際農業研修センター個別研修一覧表

(資料1)
平成6年度見学者等実績

依頼先記号：(J) JICA

(外) 外務省

(一) 一般見学者

月日	氏名	国名	所属・役職	人数	備考	依頼先
4月4日	Mr. Thoch Meng KHEANG	カンボディア	農業普及組織担当	1	個別一般研修員	(J)
4月11日	テレビ東京番組取材記者	日本	「ナビゲーター'94」スタッフ	1	タイ米騒動に係る稲作 研修員取材	ジャーナ リスト
4月14日	Mr. Ricardo D. OBLENA	フィリピン	農業省職員	1	ボホール農業振興セン ターC/P	(J)
4月14日	Ms. Daranee SRIHATAI	タイ	麻薬対策局政策企画担当	1	タイ チェンキアン高地 農業開発センターC/P	(J)
4月15日	JICA新規採用職員	日本	JICA職員	41	新規採用職員第1次導 入研修	(J)
4月21日	東ソー農畜産交流協会 研修員6名	中国	研修員(養豚)	8	施設見学	(一)
4月21日	科学技術週間一般公開来訪	日本		58	平成6年筑波学園都市 科学技術週間一般公開	(一)
4月26日	錦嶺小学校5年生95名	日本		95	国際理解協力	(一)
4月26日	Mr. John MAKIN	イギリス	National Resources Inst. アジア担当次長	2	視察・意見交換	(一)
	Dr. Angela TSAC	イギリス	National Resources Inst. 作物保護専門家			
5月9日	柳谷 謙介	日本	JICA総裁	3		(J)
	大島 賢三	〃	JICA総務部長			
	鏡 武	〃	JICA企画部長			
5月20日	神津 正男	日本	派遣予定専門家(中国)	4	派遣予定専門家(中 国・肉用牛肥育技術及 び水稲機械化栽培)	(J)
5月24日	Mr. Asghar Granmeieh	イラン	マザンガラ州知事	4		(一)
	Mr. Hadi Roohani	〃	最高指導者代理			
	Mr. Sayed Kazem Noormofidi	〃	〃			
5月26日	地方自治体職員	日本	国際交流窓口職員等	15	平成6年度第1回地方 自治体職員等国際協力 実務研修	(J)
5月31日	遠藤英夫	日本	(財)日本国際協力センター 理事長	3		(一)
5月31日	Mr. Gayan Deo	フィジー	農業省コロンビア農業試験場 研究員	1	1983年農業一般コース 研修員	(一)

月 日	氏 名	国 名	所 属 ・ 役 職	人数	備 考	依頼先
9月13日	岩手県胆沢町農家(10名)	日本	農家実習(野菜生産コース) 受入農家	11	平成5年度野菜生産コ ース農家実習受入農家 のセンター訪問	(一)
9月14日	菅原 浩(同町職員) 研修員(11名)	日本	岩手県胆沢町農林課 農業機械管理コース研修員	11	平成6年度農業機械管 理コースに係るセンタ ー見学	(J)
9月14日	関 正治 湧井 義郎 協力隊研修生(5名)	日本 日本 日本	鯉淵学園	7	野菜生産コース見学	(一)
9月20日	米安 高橋 勝成	日本 日本	協力隊技術顧問:東京農業大 学名誉教授 協力隊技術顧問室参事	2	協力隊技術顧問のセン ター視察	(J)
9月29日	研修員(5名)	トルコ	半乾燥地域農業開発現地実証 調査研修	5	半乾燥地域農業開発現 地実証調査研修に係る 見学	(J)
9月29日	JICAローカルスタッフ	10ヵ国	在外事務所クラーク	10	平成6年度在外事務所 現地補助員本邦研修	(J)
9月29日	藤田 総裁 庵原 部長 松沢 室長	日本 日本 日本	JICA総裁 JICA研修事業部長 JICA秘書室長	3	センター視察	(J)
9月29日	柴田 氏	日本	日本ボランティアセンター 職員	1	南ア特設コース講義等 に係る打ち合わせ	(一)
10月6日	Dr.Caleb Mailoni FUNDANGA	ザンビア共和国	大統領府開発協力次官	1	外務省中堅指導者招聘	外務省
10月14日	鷹島屋国際農友会(岩手県)	日本	農業機械コース受け入れ農家	13	農家実習受入農家のセ ンター来訪	(一)
10月19日	栗田 正治 農業一般コース専門家	日本	専門家養成研修コースリーダ ー 受講生	9	専門家養成研修に係る 見学・意見交換	(J)
10月28日	Dr. Amrin Zakaria Mr. Rismansyah Danasaputra	インドネシア インドネシア	農業省農業訓練局長 インドネシア大使館農業水産 部長	2	日本視察中のセンター 立ち寄り	(一)
11月10日	Ms. 芦沢	日本 フィリピン 中国	筑波大学大学院博士過程学生 同 留学生	4	センター一般見学	(一)
11月11日	田口 理事	日本	国際協力事業団 理事	1	国際親善パーティー出 席に係るセンター来訪	(J)
11月15日	Mr. Tao Seng Hour	カンボディア	農林水産省 長官	1	個別一般研修	外務省
11月16日	高校職員	日本	茨城県立農業高校事務職員	15	茨城県農業高等学校事 務職員研究会の視察	(一)
11月17日	カンボディア国際協力促進 コース	カンボディア	外務・国際協力省職員	4	技術協力セミナーに係 る来訪見学	(J)

月 日	氏 名	国 名	所 属 ・ 役 職	人数	備 考	依頼先
11月22日	研修課長会議出席者	日本	JICAセンター研修課長	10	平成6年度第2回研修課長会議出席者のセンター見学(自由参加)	(J)
11月25日	Look Japan 記者	日本		1	南アフリカ研修員取材	ジャーナリスト
12月6日	開発協力研修員	ブラジル	セラード開発 政府・銀行関係者	13	セラード開発に係る関係者研修のセンター見学	(J)
	村尾 氏	日本	(社) 海外農業開発協会			
12月8日	Mahadi Ahmed Ali	エチオピア	外務省アジア、オーストラリア中東局長	1	中堅指導者招聘	外務省
12月13日	Nam Soon Jong	韓国	農漁村振興公社教育院管理部長	4	施設一般見学(韓国系企業独自の日本研修の一環のセンター立ち寄り)	(一)
	Kwak Chang Ho	韓国	指導課長			
	Park Ki Dong	韓国	教育課長			
1月12日	Danson Mudekunye	シンバブエ	外務省アジア太平洋東欧局長	1	外務省中堅指導者招聘	外務省
1月20日	地方自治体職員研修	日本	地方自治体国際協力担当職員	26	平成6年度第5回地方自治体職員等国際協力実務研修	(J)
2月2日	Mr. Pantiin Ganhuyag	モンゴル	通商産業省対外経済貿易対策局次長	3	無償資金協力被援助国関係者招へい計画	外務省
	角 哲也	日本	外務省経協局無償資金協力課			
	村樫 裕康	日本	外務省経協局無償資金協力課			
2月6日	Mr.Tesfaye GIZAW	エチオピア	【水資源開発】研修員	1	ベノチヨ平原農業開発計画C/P研修に係るセンター視察	(J)
2月6日	Dr. Francis Mtrobo SHAHO	タンザニア	(準高) 農業省研究研修局局長	3	キリマンジャロ農業技術者訓練センター計画C/P【農業普及】	(J)
	Mr. Joseph Bora NDUNGURU	タンザニア	(準高) 農業省研究研修局研修課長			
	Mr. Michael W. MISABO	タンザニア	(一般) 農業省研究研修局研修課計画官			
2月6日	Mr. Joseph NIAMKE	コートジボアール	農業動物資源省農業総務局長	1		(J)
2月7日	Prof. Kyou Seng Lea 他5名	韓国	成均館大学	9	韓国大学視察団の立ち寄り	(一)
	小林 正之 他2名	日本	筑波大学農林工学系助教授			
2月9日	Mr. Friday SHISALA	ザンビア	エネルギー水開発省水利局地方水道部長	2	地方給水計画プロジェクト【地下水開発】研修に係るセンター視察	(J)
	宮内	日本	日本テクノ(研修受入先)			
2月9日	集団コース研修員5名 伊良部忠男	イラン他4ヵ国 日本	さとうきび栽培コース研修員	6	【さとうきび栽培コース】に係るセンター視察	(J)
2月10日	国総研 研修員5名	中国	中国【政府開発援助制度】研修員	5		(J)

月 日	氏 名	国 名	所 属 ・ 役 職	人数	備 考	依頼先
2月10日	Mr. ZHAO, Jing-Cheng	中国	灌漑技術センター計画総工 程師	1	「灌漑排水・システム開 発」に係るセンター視 察	(J)
2月28日	William Alberto ARTEGA DONAYRE	ペルー	ペルー農業省企画局長	1	個別一般「国際協力事 業紹介」	(J)
3月2日	江戸崎高校	日本	1年生(農業科、園芸科)	70	開発教育	(一)
3月8日	Mr. Hector TABLAS ROMERO	ホンデュラス		3	「コ」傾斜地灌漑、「ホ」 灌漑排水技術開発計画 C/P	(J)
	Mr. Carlos DELA ESPRITELLA	コロンビア				
3月24日	南部アフリカ各国研修員 6名	6カ国		8	「JICA/CIDA南部アフ リカセミナー」に係る センター見学	(J)
	大岩 陸明		国総研調査研究課			
	相原 奉章		ジュニア専門員			
3月27日	Mr. Serjadi Tjokrosoewito	インドネシア	内務省	2	個別一般「地域開発紹 介」	(J)
	Mr. Supratiknyo	インドネシア	内務省			
3月29日	MR. AFFRO Ta Andre	コートジボアール	農業開発資源公社研修人材資 源部長	1		(J)
3月29日	国別特設研修員9名	カンボディア		9	国別特設「国際協力事 業紹介」	(J)
見学者等総人数				782		

(資料2)

平成6年度筑波国際農業研修センター関連表彰状等授受者

1. 国際協力功労者表彰

(1) 個人

中原 通夫 海外経済協力基金 技術顧問

(社) 海外農業開発コンサルタント協会 技術顧問

本田 親史 元筑波国際農業研修センター 研修指導者

(2) 団体

茨城県下館土地改良事務所 (所長 峰岸 重夫)

(資料3)

平成6年度筑波国際農業研修センター職員・研修スタッフリスト及び
担当業務

1. 職員リスト

所 属	役 職	氏 名	担 当 業 務	
総務課	所 長	山 縣 正 安	所長特命事項 課総括 総務、予算、広報 会計 施設管理、契約 庶務 (3月16日、配属)	
	特任参事 課 長・参 事 課長代理・副 参 事 参 事	山前 縣 正 安 太田 田 光 彦 桜井 井 英 充 加藤 藤 怜 子 大沼 沼 保 松 佐藤 末 松		
研 修 室	室 長(事務取扱) 室長代理・参 事	山 縣 正 安(兼) 西 村 美 彦	室総括 企画調整班総括 (8月26日、配属) 企画調整班総括 (9月1日、転勤) 研修事務 付属農場管理 栽培・農業開発班総括 栽培・農業開発班総括 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 (10月16日、配属) 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 (7月29日、転勤) 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 (11月1日、転勤) 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 (8月1日、配属) 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 (4月22日、配属) 農業工学・環境班総括 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 (7月1日、転勤) 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 (1月1日、配属) 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 (4月22日、配属)	
	室長代理・参 事	石 塚 幸 寿		
	室長代理・参 事 室 長・参 事 参 事	内 島 光 孝 飯 田 久 昭 中 野 久 雄 小瀬川 修 三		
		江 川 敬 三		
	副 参 事	北 中 真 人 洪 澤 孝 雄		
	センター付	参 事		清 水 勉
				中 本 明 男
				森 口 加奈子 田 中 努
				米 山 正 博 枝 川 孝 男 安 田 和 彦 竹 内 康 人
				村 竹 儀 昭
佐 藤 福次郎 小笠原 誠 作 加 藤 憲 一				
参 事	千 田 徳 夫			

2. 研修スタッフリスト

(1) 栽培・農業開発班

役 職	氏 名	担当コース名	担 当 業 務	備 考
研修指導者	阿 部 登	稲作関連コース全般	研修計画・研修指導の技術的助言 作物保護分野の講義、実験・実習 及び視察研修等の指導	
〃	天 野 洋 司	〃	研修計画・研修指導の技術的助言 土壌肥料分野の講義、実験・実習 及び視察研修等の指導	
〃	山 田 英 一	野菜関連コース全般	研修計画・研修指導の技術的助言 講義、実験・実習（採種、種子） 及び視察研修等の指導	
研修指導者	清 治 有	米生産	講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	
〃	山 岸 恭 敬	〃	〃	平成6年4月1日から
〃	藤 井 俊 夫	〃	〃	平成6年12月1日から
〃	小長谷 裕 宝	米生産（仏）	〃	
〃	坂 上 潤 一	〃	〃	平成6年4月1日から
〃	古 谷 隆 司	稲作技術	〃	
〃	井 上 郁 夫	野菜採種	講義、実験・実習（採種栽培）及 び視察研修等の指導	平成6年10月31日まで
〃	浦 山 久	〃	講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	
〃	小 山 真 一	〃	〃	平成6年4月1日から
〃	佐久間 弘 行	野菜生産、南アフリ カ特設	講義、実験・実習（栽培）及び視 察研修等の指導	平成6年10月16日まで
〃	苗 代 孝 暢	〃	講義、実験・実習（栽培、土壌） 及び視察研修等の指導	平成6年1月1日から
〃	加 藤 康 雄	〃	〃	平成6年2月21日から
〃	奥 田 実 行	野菜生産、野菜採種	〃	平成6年10月1日から
研修監理員	折 田 典 子	米生産（仏）	仏語の通訳、翻訳	

(2) 農業工学・環境班

役 職	氏 名	担当コース名	担 当 業 務	備 考
研修指導者	小 川 淨 壽	農業機械関連コース	研修計画・研修指導の技術的助言 講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	平成6年12月31日まで
◇	柿 沼 計	◇	◇	平成7年1月1日から
研修指導員	桜 井 文 海	農業機械設計、農業 機械化	講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	
◇	時 田 邦 浩	農業機械化、農業機 械設計	◇	
◇	山 口 浩 司	農業機械設計、農業 機械化	◇	平成6年5月15日まで
◇	一ノ瀬 藤 雄	農業機械化、農業機 械設計	◇	平成6年5月16日から
◇	海老原 洋 司	灌漑排水、水管理	◇	
◇	佐 藤 勝 正	◇ ◇	◇	
◇	土 井 康 弘	◇ ◇	◇	
◇	磯 洋 子	◇ ◇	◇	

(資料4)

平成6年度JICA農林水産業関係国内委員会の委員委嘱状況

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 水田作・畑作研究国内委員会 | 中 野 久 雄 |
| 2. 野菜研究国内委員会 | 小瀬川 修 |
| 3. 果樹・特用作物研究国内委員会 | 石 塚 幸 寿 (平成6年4月～8月) |
| 同 上 | 西 村 美 彦 (平成6年8月～平成7年3月) |
| 4. 農業機械国内委員会 | 米 山 正 博 |

(資料5)

平成6年度筑波国際農業研修センター施設概要

I. 土地

1. 敷地面積	30,758.75m ²
(1) 場内敷地	19,542.35m ²
(2) 場外敷地	11,216.40m ²
2. 圃場面積	92,405.00m ²
(1) 水田	38,288.00m ² (場内2,100.00m ² ・場外36,188.00m ²)
(2) 畑	54,117.00m ² (場内6,300.00m ² ・場外47,817.00m ²)
3. 合計	123,163.75m ²

II. 施設

1. 本館	2,988.53m ²
-------	------------------------

階	区 分	面 積	階	区 分	面 積
1 階	1. 所長室	30.02	1 階	19. その他の共用部分 計	77.61
	2. 事務職員室 総務課 研修室	297.56 (74.00) (223.56)			989.88
	3. 応接・会議室	46.38	2 階	1. 図書情報室	183.00
	4. 会議室A・B	52.36		2. 作物実験室	80.09
	5. コピー室	25.27		3. 組織培養実験室	69.39
	6. ロッカー室(男)	21.46		4. 園芸実験室	76.78
	7. ロッカー室(女)	3.38		5. コンピューター実習室	55.74
	8. 倉庫 No1	8.00		6. 化学分析実験室	146.78
	9. 倉庫 No2	12.42		7. 病理昆虫実験室	86.25
	10. ロビー	91.00		8. 研修監理員室	55.20
	11. 機械室 No1	62.10		9. 機械室 No2	74.32
	12. 守衛室	10.80		10. 倉庫 No3	33.12
	13. 廊下	73.80		11. 倉庫 No4	24.15
	14. 湯沸室	2.55		12. 湯沸室	2.55
	15. 自販コーナー	8.10		13. 便所(男)	13.50
	16. 車庫	142.77		14. 便所(女)	10.80
	17. 便所(男)	13.50		15. 吹抜及び共用部分 計	77.51 989.18
	18. 便所(女)	10.80			

階	区 分	面 積	階	区 分	面 積	
3 階	1. 講 義 室 No 1	57.53	3 階	12. 倉 庫 No 5	27.44	
	2. 〃 Na 2	57.53		13. 自販コーナー	2.55	
	3. 〃 Na 3	51.49		14. 便 所 (男)	13.50	
	4. 〃 Na 4	57.53		15. 便 所 (女)	10.80	
	5. 〃 Na 5	51.66		16. オープンバルコニー	218.91	
	6. 〃 Na 6	58.74		及び共用部分		
	7. 〃 Na 7	51.6		計	864.00	
	8. 講 堂	124.35		屋 上	電気室及び機械室 No 3	107.57
	9. 映 写 室	24.87			機 械 室 No 4	37.90
	10. ホール	27.44			計	145.47
	11. 和 室	28.00				

2. 本館付属施設 6,548.73m²

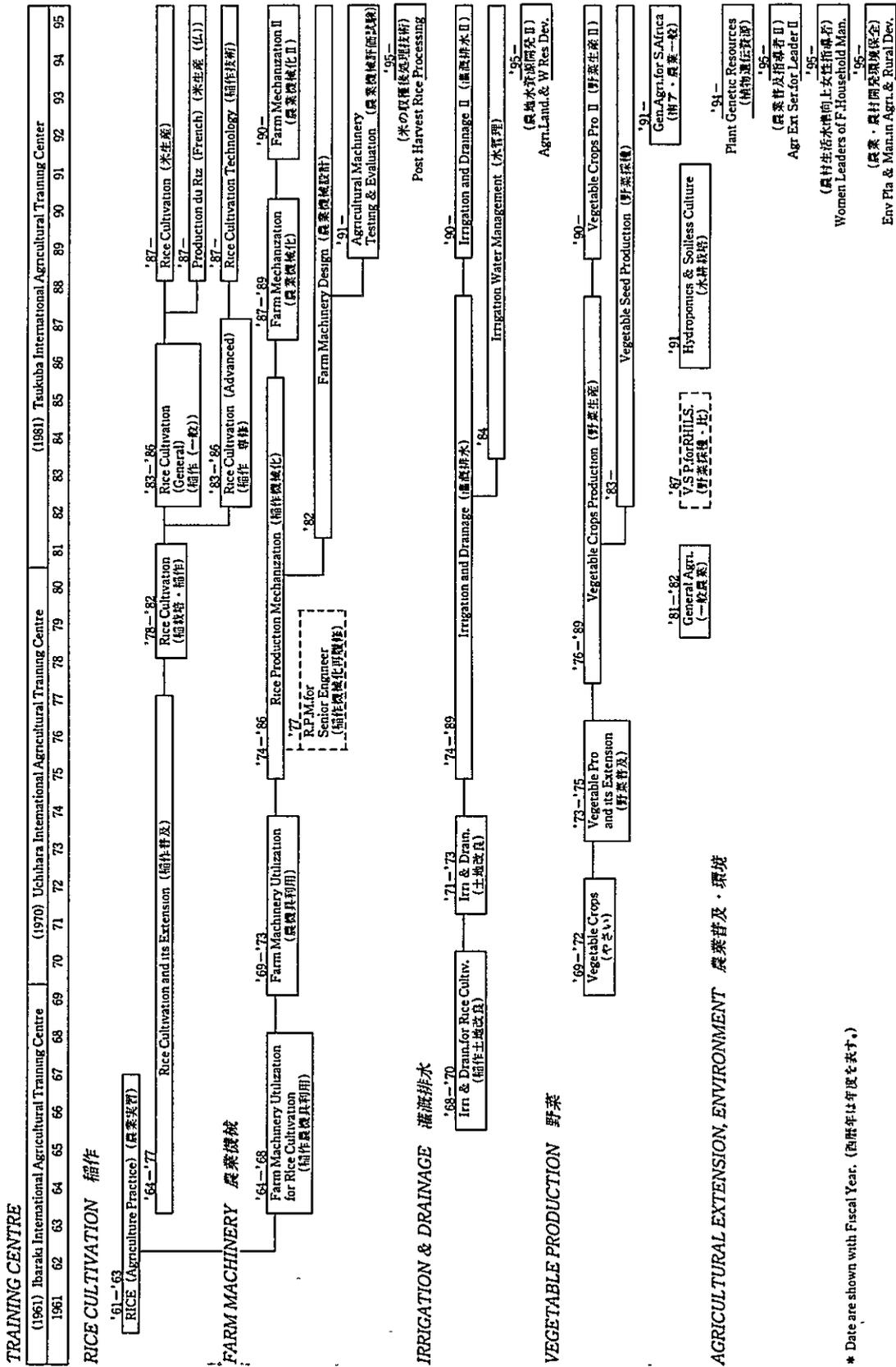
(1) 灌漑排水実験棟	1階	747.00m ²	(2) 農業機械化実験棟	1階	783.29m ²
	2階	559.85m ²		2階	772.23m ²
	計	1,306.85m ²		屋上	50.13m ²
				計	1,605.65m ²
(3) 野菜作業棟		538.00m ²	(7) 農業機械庫		162.00m ²
(4) 稲作作業棟		492.00m ²	(8) 堆肥舎		162.00m ²
(5) 農業資材棟		108.00m ²	(9) 温室・網室13棟		2,048.23m ²
(6) 田植機実験庫		126.00m ²	(10) [(3)~(9)の計]		3,636.23m ²

3. 付属農場 1,630.83m²

(1) 穀物調整棟	504.02m ²	(6) 洗車棟	86.23m ²
(2) 修理棟	142.63m ²	(7) 材料庫	142.63m ²
(3) 作業機棟	142.63m ²	(8) 農場管理棟	185.62m ²
(4) トラクター庫	142.63m ²	(9) 網室	170.01m ²
(5) 屋内実験棟	114.43m ²		

4. 合 計 11,168.09m²

(資料 6) Historical Change of Group Training Courses Conducted by TIATC
筑波国際農業研修センター集団研修コース変遷系統図 (1995年3月31日現在)



* Date are shown with Fiscal Year. (西暦年は年度を表す。)

(資料7)

Number & countries of Participants Accepted by Group Training Courses (FY 1994)
平成6年度筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数

Tsukuba International Agricultural Training Centre (TIATC), JICA

Country (国名)	Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology 稲作技術	Rice Production 米生産	Production du Riz (French) 米生産(仏)	Farm Mechanization 農業機械化	Farm Machinery Design 農業機械設計	Irrigation and Drainage 灌漑排水	Irrigation Water Management 水管理	Vegetable Crops Production 野菜生産	Vegetable Seed Production 野菜採種	Agric'l Machinery Testing & Evaluation 農機評価試験	Plant Genetic Resources 植物遺伝資源	TOTAL 合計
ASIA													
1	Bangladesh	1											1
2	Cambodia		1				1						2
3	China	1			1		1						5
4	Hong Kong					1			1				1
5	India	1				1							2
6	Indonesia								1		1	1	3
7	Korea	1									1		2
8	Malaysia		1										1
9	Myanmar		1		1		1		1				6
10	Nepal					1				1			2
11	Pakistan	1			2	2	1				2		7
12	Philippines		1		2	2	3	1		1	2		12
13	Sri Lanka	1						1		2			7
14	Taiiland	1					1	1			1		4
15	Viet-Nam				1	2	1	1				1	6
Sub-total ①		(7)	(4)	(0)	(7)	(9)	(9)	(4)	(5)	(4)	(10)	(2)	(61)
MIDDLE EAST													
16	Egypt	1			1		1	1			1		5
17	Iran				1		1					1	3
18	Jordan							1					1
19	Turkey					1							1
Sub-total ②		(1)	(0)	(0)	(2)	(1)	(2)	(2)	(0)	(0)	(1)	(1)	(10)
AFRICA													
20	Burkina Faso			1									1
21	Cameroon			1									1
22	Cote d'Ivoire			1			1						2
23	Equat'l Guinea			1									1
24	Ethiopia				1			1					2
25	Ghana				1								1
26	Guinea			1		1							2
27	Kenya		2				1	2	2				9
28	Madagascar			1			1						1

Country (国名)	Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology 稲作技術	Rice Production 米生産	Production du Riz (French) 米生産 (仏)	Farm Mechaniza- tion 農業機械化	Farm Machinery Design 農業機械設計	Irrigation and Drainage 灌漑排水	Irrigation Water Management 水管理	Vegetable Crops Production 野菜生産	Vegetable Seed Production 野菜採種	Agric'l Machinery Testing & Evaluation 農機評価試験	Plant Genetic Resources 植物遺伝資源	TOTAL 合計
AFRICA													
29 Malawi							2						2
30 Niger			1				1						2
31 Senegal			1										1
32 Sierra Leone		1											1
33 South Africa													0
34 Swaziland									1				1
35 Tanzania							1			1			2
36 Uganda													1
37 Zambia							1		1				2
38 Zimbabwe									1				1
Sub-total ③		(0)	(3)	(8)	(4)	(1)	(6)	(4)	(3)	(3)	(1)	(0)	(33)
LATIN AMERICA													
39 Argentina			1							2		1	3
40 Bolivia													1
41 Chile												1	1
42 Cuba									1			1	2
43 Dominican Rep.							1	1					2
44 El Salvador									1				1
45 Mexico								1		1			2
46 Paraguay						1							1
47 Peru							1						1
48 Suriname									2	1			5
49 St. Vincent										1			1
Sub-total ④		(0)	(1)	(0)	(2)	(1)	(2)	(2)	(3)	(5)	(1)	(3)	(20)
OCEANIA													
50 Micronesia									1				1
51 Papua New Guinea			1										1
Sub-total ⑤		(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)
GRAND TOTAL (51 countries)		8	9	8	15	12	19	12	12	12	13	6	126

(注) 東洋研修コースに参加の個別研修員を含む。

(資料 8)

Number of Participants Accepted by Group Training Courses in 33 Years (FY 1961 ~ 1993)
筑波国際農業研修センター・年度別研修員受入れ数 (1961 ~ 1993年度)

Tsukuba International Agricultural Training Centre (TIATC), JICA

Training Course (コース)	Rice Cultivation Technology ('83-'93)	Rice Production ('61-'93)	Production du Riz ('87-'92)	Farm Mechanization ('64-'93)	Farm Machinery Design ('82-'93)	Irrigation and Drainage ('68-'93)	Irrigation Water Management ('84-'93)	Vegetable Crops Production ('69-'93)	Vegetable Seed Production ('83-'93)	Agri. Machi. Testing & Evaluation ('90-'93)	General Agr.	Hydropon Culture ('90-'91)	Total
	稲作技術	米生産	米生産 (仏)	農業機械化	農機設計	灌漑排水	水管理	野菜生産	野菜採種	農機評価	農業一般	養液栽培	合計
'61		19											19
'62		18											18
'63		25											25
'64		17		7									24
'65		13		11									24
'66		13		11									24
'67		13		9									22
'68		7		11		10							28
'69		13		13		11		13					50
'70		11		10		8		13					42
'71		11		12		10		11					44
'72		11		12		9		15					47
'73		10		11		5		13					39
'74		10		10		* 5) 11, 8		12					51
* 1) '75 (a)		9		10		* 5) 9, 9		10					47
'75 (b)		12		11		12		11					47
'76		12		11		10		11					44
'77		12		* 6) 6, 11		12		13					54
'78		11		13		11		13					47
'79		13		12		11		10					47
Sub-Total (1)		(260)		(191)		(146)		(146)					(743)
'80		14		13		13		13					55
'81		11		12		12		12			9		74
'82		14		12		14		13			11		77
'83	6	12		12		13		12	12				83
'84	9	12		10		13		11	10				87
'85	8	12		12		12		14	10				88
'86	10	12		11		13		11	11				94
'87	8	11		10		13		11	* 3) 10, 12				96
'88	9	11		12		14		11	12				100
'89	9	11		12		14		11	12				96
'90	8	9		10		12		10	9			4	96
'91	10	7		12		19		14	13		* 4) 4	4	123
'92	9	9		14		18		11	12				120
'93	9	10		12		18		11	12				120
Sub-Total (2)	(95)	(155)	(47)	(163)	(125)	(198)	(91)	(165)	(134)	(46)	(39)	(6) * 7)	(1266)
Total	95	415	47	354	125	344	91	311	134	46	39	8	2,009

* 1) In FY 1975 the training course was held twice, the first was started in April '75, and the second in March '76.

1975年度は、1975年4月に研修コースが開始された後、次回は1976年3月に開始された為、2回の実施となった。

* 2) In 1987 the training course was started in February, that was included as a training course of F.Y.'86, and in

1988 it was started in April, that was included as F.Y.'88

* 3) Ten (10) indicates the number of Participants attended the special training course for Philippines

開始時期を2月から4月に変更した為、87年度は継続のみとなった。

* 4) This is the number of Participants attended the special training course for Republic of South Africa.

この数字は、フィリピン・特設野菜採種コースに参加した研修員数を表す。

* 5) In F.Y. 1974 and 1975 the training course was held twice a year.

1974年度は、1975年度は前年コースを、右の数字は後期コースを、それぞれ表す。

* 6) Six (6) indicates the number of Participants attended the special training course for senior engineers.

この数字は、農業機械研修コースに参加した研修員数を表す。

* 7) This is the number of Participants attended the training course in Plant Genetic Resources.

この数字は、植物遺伝資源コースに参加中の研修員数を表す。

(資料9)

Number & countries of Participants Accepted by Group Training Course (FY 1961~1993)
 筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数 (1961~1993年度)

Tsukuba International Agricultural Training Centre (TIATC), JICA

Country (国名)	Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology ('84-'92)	Rice Production (Production of Rice) ('61-'92)	Production du Riz (French) ('88-'92)	Farm Mechaniza- tion ('64-'92)	Farm Machinery Design ('83-'92)	Irrigation and Drainage ('68-'92)	Irrigation Water Management ('85-'92)	Vegetable Crops Production ('69-'92)	Vegetable Seed Production ('84-'92)	Agric'l Machinery Testing & Evaluation ('90-'92)	Hydroponics & Soilless Culture ('90-'91)	General Agriculture ('81-'92)	TOTAL
	稲作(専修) 稲作技術	農業実習 稲作(一般) 米生産	米生産(仏)	稲作農機具 農機具利用 稲作機械化 農業機械化	農業機械設計	稲作土地改良 灌漑排水	水管理	野菜普及 野菜生産	野菜採種 (含むアメリ ン・種子生産)	農業機械 評価試験	養液栽培	農業一般 南ア・ 農業一般		
ASIA														
1	Bangladesh	6	8		6	7	10	3	17	11	1		2	71
2	Bhutan		6		8	1	1	1	3	1			3	24
3	Brunei		1											1
4	Cambodia		7	1	5		3		2					18
5	China	8	4		4	8	1		3	6	4	1		37
6	India	3	26		15	3	9		6	1	5			68
7	Indonesia	6	52		41	17	33	4	17	5	4	3		182
8	Korea	2	1		3	4			1		4			15
9	Laos		11		8		9		7					35
10	Malaysia	6	23		24	2	12	7	8	1		1		88
11	Maldives				1				2					4
12	Mongolia				1									1
13	Myanmar	2	15		12	5	9	5	6	3				58
14	Nepal	1	15		9	2	10		15	3	1			58
15	Pakistan	6	8		7	4	10	3	5	3				46
16	Philippines	11	32		32	11	36	13	27	20	2			184
17	Sri Lanka	7	17		20	7	25	5	17	3	2			108
18	Thailand	10	32		28	18	19	8	16	9	4	1		145
19	Viet-Nam		1		1	1			1	1				5
	Sub-total ①	61	257	1	224	90	187	49	153	67	32	6	13	1140
MIDDLE EAST														
20	Afghanistan		6		9		2		7					24
21	Bahrain													1
22	Egypt	8	11		14	5	12	8	11	4	1			77
23	Iran	2	9		9	5	15		4	1				46
24	Iraq		2		2		5		4	2				15
25	Jordan								4	2				11
26	Morocco								9	2				2
27	Saudi Arabia								1					2
28	Sudan	1	11		8	1	6	3	1	2				32
29	Syria								2	1				10
30	Tunisia								1	1				2
31	Turkey				2	6	2		1	1				10
32	Yemen													1
	Sub-total ②	11	39	0	44	17	48	14	40	14	5	1	0	233

Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology ('84-'92) 稲作(専修) 稲作技術	Rice Production ('61-'92) 農業実習 稲作普及 稲作(一般) 米生産	Production du Riz (French) ('88-'92) 米生産(仏)	Farm Mechanization ('64-'92) 稲作農機具 農機具利用 農業機械化	Farm Machinery Design ('83-'92) 農業機械設計	Irrigation and Drainage ('68-'92) 稲作土地改良 灌漑排水	Irrigation Water Management ('85-'92) 水管理	Vegetable Crops Production ('69-'92) やさい 野菜普及 野菜生産	Vegetable Seed Production ('84-'92) 野菜採種 (含むフィリピン、種子生産)	Agric'l Machinery Testing & Evaluation ('90-'92) 農業機械 評価試験	Hydroponics & Soilless Culture ('90-'91) 葉液栽培	General Agriculture ('81-'92) ('91-'92) 農業一般 普及 農業一般	TOTAL
AFRICA													
33 Benin			2	1									3
34 Botswana		1											1
35 Burkina Faso								1	1				2
36 Burundi		2											2
37 Cameroon		1							1				4
38 Central Africa			8	3	3	1							15
39 Cote d'Ivoire			1	1	1	8	3						13
40 Ethiopia		3		3		1							8
41 Gabon		1											1
42 Gambia		1		3		3		3	2				17
43 Ghana		5						4					9
44 Guinea		1	7	2		1							12
45 Guinea-Bissau		1	1	1	1	1	1	7	2				5
46 Kenya		13		2	2	3		1					33
47 Liberia		9		1		3		7					20
48 Madagascar			6			3		1	1	1			9
49 Malawi		1	5	1		7	4	6					18
50 Mali													1
51 Mauritania			1						1				1
52 Mauritius													10
53 Niger		17	6	17		3							42
54 Nigeria						8							1
55 Rwanda			4	1		1			1				7
56 Senegal		4		1		1							7
57 Sierra Leone												19	19
58 South Africa													1
59 Swaziland													94
60 Tanzania		20		20	5	18	3	22	5	1			1
61 Togo			1										2
62 Uganda						1							1
63 Zaire			1										1
64 Zambia						1							3
65 Zimbabwe									1				1
Sub-total ③	2	77	46	58	10	64	15	56	14	3	0	19	364

Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology ('84-'92) 稲作(専修) 稲作技術	Rice Production ('61-'92) 農業実習 稲作(一般) 米生産	Production du Riz (French) ('88-'92) 米生産(仏)	Farm Mechanization ('64-'92) 稲作農機具 農機具利用 稲作機械化 農業機械化	Farm Machinery Desires ('83-'92) 農業機械設計	Irrigation and Drainage ('68-'92) 稲作土地改良 土地改良 灌溉排水	Irrigation Water Management ('85-'92) 水管理	Vegetable Crops Production ('69-'92) やさい 野菜普及 野菜生産	Vegetable Seed Production ('84-'92) 野菜採種 (含むフィリピン・種子生産)	Agric'l Machinery Testing & Evaluation ('90-'92) 農業機械 評価試験	Hydroponics & Soilless Culture ('90-'91) 養液栽培	General Agriculture ('81-'82) ('91-'92) 農業一般 南ア. 農業一般	TOTAL
LATIN AMERICA													
66 Antigua and Barbuda													1
67 Argentina	2	2				2		1					12
68 Bolivia		3		1		3		6	3				19
69 Brazil	3	5		7	3	13	3	12	6	1			54
70 Colombia		1		3		1							6
71 Costa Rica						1			2				7
72 Cuba	2			1				1		1			7
73 Dominican Rep.		4				11	3						16
74 Ecuador		2		1									4
75 Grenada								1					1
76 Guatemala								2	5				7
77 Honduras		1		1		3	1		1				9
78 Jamaica		2											3
79 Mexico	5	2		3	3	2	1	6	1	3			26
80 Nicaragua	1	2				1		5	6				13
81 Panama		2											2
82 Paraguay	1	1		1	1			5		1			10
83 Peru	4	1		4		7		12	6				31
84 St. Vincent				1		1		1					2
85 Trinidad-Tobago		2		1					3				7
86 Venezuela		1											1
Sub-total ④	18	31	0	24	8	45	12	53	39	6	1	0	237
OCEANIA													
87 Fiji	2	5		3				1				6	17
88 Micronesia				1				2					4
89 Papua New Guinea		6										1	9
90 West Samoa								3					3
Sub-total ⑤	2	11	0	4	0	0	0	9	0	0	0	7	33
EUROPE													
91 Bulgaria							1						1
92 Romania	1												1
Sub-total ⑥	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
GRAND TOTAL (92 countries)	95	415	47	354	125	344	91	311	134	46	8	39	2,009

(資料10)

平成6年度筑波国際農業研修センター個別研修員分野別・受入形態別・国別受入れ実績

Tsukuba International Agricultural Training Centre (TIATC), JICA

分野・受入形態 国名	Field of Training 研修分野						Type of Award 受入形態					TOTAL
	農業一般 Agriculture General	農業土木 Agricultural Engineering	農産加工 Agric. Products Processing	養蚕 Sericulture	農業機械 Farm Machinery	食糧増産援助 Aid for Increased Food Supply	カウンター パート Counterpart	個別一般 Plan Individual	国別特設 Course Focused Course	国際機関 International Organization	東欧支援 Support for East Europe	
ASIA												
1. Bangladesh	4	1										5
2. Cambodia	4					13		24				28
3. China	8	6			3							18
4. India	4			5								9
5. Indonesia	6	5	1									12
6. Korea	3											3
7. Laos	1											1
8. Malaysia	5											5
9. Mongolia	2						2					2
10. Myanmar	2											2
11. Nepal	4	3										7
12. Pakistan	4											4
13. Philippines	15	7	1		1							24
14. Sri Lanka	9											9
15. Thailand	10	11										21
16. Viet Nam	10	11										21
Sub-total (1)	98	40	3	5	5	13	5	24	0		0	152
MIDDLE EAST												
17. Egypt	3	2										5
18. Iran	1											1
19. Turkey	1											1
20. U.A.E.	1											1
Sub-total (2)	5	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11
AFRICA												
21. Cote d'Ivoire	1	2										3
22. Ghana	1											1
23. Kenya	4	2										6
24. Senegal	1											1
25. Sierra Leone	1											1
26. South Africa	13								13			26
27. Tanzania	2											2
28. Zambia	2											2
29. Zimbabwe	2											2
Sub-total (3)	22	9	0	0	3	0	18	0	13	0	0	34
LATIN AMERICA												
30. Argentina	1											1
31. Bolivia	3											3
32. Brazil	7											7
33. Chile	4											4
34. Colombia	1											1
35. Costa Rica	1											1
36. Dominican Rep.	1					1						2
37. Ecuador	1											1
38. El Salvador	1											1
39. Honduras	3											3
40. Mexico	12	3										15
41. Paraguay	12	3										15
Sub-total (4)	35	6	0	1	0	3	0	0	0	0	0	45
EUROPE												
42. Romania	1											1
Sub-total (5)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
GRAND TOTAL (41 countries)	148	61	3	6	9	16	197	24	13	1	8	243

Remark: -Number of Participants Received in FY 1983 and Stayed by FY 1984 is not included in this Data.
-Number of Individual Participants Participated in TIATC GROUP Training Courses Included in this Data.

(資料11)

平成6年度筑波国際農業研修センター個別研修一覧表

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
JOCV 国内第一課	ボリビア	協力隊員(飯草 智代)	植物遺伝資源	'95/3/5 ~'95/4/29	種苗管理センター
業務第一課	カンボディア	食糧増産援助	農薬の安全使用	'95/2/23 ~'95/3/30	「農薬安全使用体制整備」
	カンボディア	食糧増産援助	農薬の安全使用	'95/2/23 ~'95/3/30	「農薬安全使用体制整備」
業務第二課	エル・サルヴァ ドル	2 KR	農薬合同	'95/3/9 ~'95/3/30	「農薬安全使用体制整備」
	ガーナ	2 KR	農薬合同	'95/2/23 ~'95/3/30	「農薬安全使用体制整備」
	セネガル	デビ地区灌漑改修計画	農業普及	'95/2/27 ~'95/10/27	TIATC「米生産(仏)」
	ドミニカ共和国	2 KR	農薬安全使用体制整備	'95/2/23 ~'95/3/30	「農薬安全使用体制整備」
	ホンデュラス	2 KR	農薬合同	'95/2/23 ~'95/3/30	「農薬安全使用体制整備」
研修第一課	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
研修第一課	カンボディア	カンボディア農村開発 (国別特設)	農村開発	'95/2/28 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農村開発」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	カンボディア農薬安全使用 (国別特設)	農薬安全使用	'95/3/2 ~'95/3/30	TIATCカンボディア国特 「農薬安全使用」
	カンボディア	個別一般	地域開発計画	'95/3/7 ~'95/3/23	職業訓練校
	フィリピン	個別一般	農産物ポストハーベスト技術	'94/10/12 ~'94/11/11	佐竹、大竹、マキ製作所、 静岡製機
フィリピン	第三国研修 「適正技術開発」	持続的農業	'94/11/3 ~'94/11/29	からいも交流財団	
研修第三課	エジプト	稲作技術 (第三国研修)	稲作技術	'94/10/11 ~'94/11/2	茨城県農業総合センター
	ザンビア	個別一般	灌漑排水	'95/2/13 ~'95/11/24	TIATC「灌漑排水Ⅱ」
	ザンビア	個別一般	野菜生産	'95/2/27 ~'95/9/22	TIATC「野菜生産Ⅱ」
	シェラレオーネ	個別一般	米生産	'95/2/27 ~'95/10/27	TIATC「米生産」

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
研修第三課	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発のための低投入型野菜栽培	'94/9/19 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発のための低投入型野菜栽培」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発と小規模農業経営改善	'94/11/7 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発と小規模農業経営改善」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発と小規模農業経営改善	'94/11/7 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発と小規模農業経営改善」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発と小規模農業経営改善	'94/11/7 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発と小規模農業経営改善」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発と小規模農業経営改善	'94/11/7 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発と小規模農業経営改善」
	南アフリカ	南アフリカ特設コース	農村開発と小規模農業経営改善	'94/11/7 ~'94/12/17	TIATC特設「農村開発と小規模農業経営改善」
	研修第二課	モンゴル	個別一般	農業指導者	'95/3/6 ~'95/3/30
モンゴル		個別一般	農業指導者	'95/3/6 ~'95/3/30	視察型研修
大韓民国		個別一般	生理活性物質	'94/10/31 ~'95/4/26	野菜茶葉試験場花き部開花制御研究室
社会開発協力第二課	ケニア	ジョモケニヤッタ農工大学	野菜生産技術	'95/2/27 ~'95/9/22	TIATC「野菜生産」
	ケニア	ジョモケニヤッタ農工大学	農業土木	'94/4/4 ~'94/10/12	岡山大
畜産技術協力課	インド	二化性養蚕技術開発計画	蚕種製造技術における微粒子病防除	'94/8/22 ~'95/3/5	蚕糸昆虫研 九州大学
	インド	二化性養蚕技術開発計画	社蚕飼育技術ならびに上施技術	'94/4/18 ~'94/12/20	蚕糸昆虫研究所・松本支所

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
畜産技術 協力課	インド	二化性養蚕技術開発計画	二化性蚕品種の育成	'94/4/18 ~'94/12/20	蚕糸昆虫研究所・松本支所
	インド	二化性養蚕技術開発計画	桑の系統撰枝技術	'95/1/30 ~'95/7/29	蚕糸昆虫農業技術研究所
	インド	二化性養蚕技術開発計画	製糸技術	'94/4/18 ~'94/11/15	蚕糸昆虫研究所(岡谷)
	スリ・ランカ	植物遺伝資源センター計画 (F/U)	評価(アイソザイム)	'94/9/19 ~'95/1/29	農業生物資源研究所
	スリ・ランカ	植物遺伝資源センター計画 (F/U)	栄養系増殖	'94/11/15 ~'95/3/26	農業生物資源研究所
	スリ・ランカ	植物遺伝資源センター計画 (F/U)	栄養系増殖(組織培養)	'95/3/30 ~'95/8/13	農業生物資源研究所
	タイ	カセサート大学農業普及・ 機械化計画(A)	農業普及指導者	'94/5/10 ~'94/7/31	TICH「農業普及指導者」
	タイ	カセサート大学農業普及・ 機械化計画(A)	農家生活水準向上女性指導 者	'94/8/9 ~'94/10/29	TICH「農家生活水準向上 女性指導者」
	タイ	カセサート大学農業普及・ 機械化計画(A)	普及	'94/10/2 ~'94/10/22	沖縄センター他
	チリ	チリ植物遺伝資源計画 (F/U)	遺伝資源の保存管理	'94/5/16 ~'94/8/28	TIATC「植物遺伝資源」 (農業生物資源研究所)
	チリ	チリ植物遺伝資源計画 (F/U)	植物検疫(植物病理・検 疫)	'94/7/5 ~'94/9/30	北海道農試
	チリ	チリ植物遺伝資源計画 (F/U)	大麦バイオテク育種	'95/2/14 ~'95/4/26	農研センター
	チリ	チリ植物遺伝資源計画 (F/U)	バイオテクノロジー	'94/7/12 ~'94/9/15	生物資源研
	ドミニカ共和国	胡椒開発計画 (フェーズⅡ)	野菜生産技術	'94/4/9 ~'94/9/20	TIATC C/P合同「野菜生 産技術」
	ドミニカ共和国	胡椒開発計画 (フェーズⅡ)	農業経営計画	'94/7/18 ~'94/11/30	東京農大
	ドミニカ共和国	胡椒開発計画 (フェーズⅡ)	農業経営計画	'94/7/18 ~'94/11/30	東京農大
	ネパール	園芸開発計画 (フェーズⅡ)	普及(落葉果樹)	'94/9/27 ~'94/12/7	果樹試験場(安芸津支場) 全中
	ネパール	園芸開発計画 (フェーズⅡ)	果樹栽培及び土壌分析	'94/9/27 ~'94/12/21	果樹試験場(本場、興津)
	ネパール	園芸開発計画 (フェーズⅡ)	柑橘栽培	'94/9/27 ~'94/12/7	果樹試験場口之津支場
	ネパール	園芸開発計画 (フェーズⅡ)	柑橘栽培	'95/3/21 ~'95/5/24	果樹試験場

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
畜産技術協力課	パキスタン	植物遺伝資源保存研究計画	植物試験管内培養	'94/8/29 ~'95/1/22	果樹試験場
	パキスタン	植物遺伝資源保存研究計画	施設管理	'94/11/15 ~'95/3/12	農業生物資源研究所デノヨー
	パキスタン	植物遺伝資源保存研究計画	ジーンバンク管理	'94/9/5 ~'95/3/12	農業生物遺伝研究所
	パラグアイ	青果物流通改善計画	青果物流通改善	'94/8/22 ~'94/9/23	視察型研修(3名合同)
	パラグアイ	青果物流通改善計画	青果物流通改善	'94/8/22 ~'94/9/23	視察型研修(3名合同)
	パラグアイ	青果物流通改善計画	青果物流通改善	'94/8/22 ~'94/9/23	視察型研修(3名合同)
	ブラジル	アマゾン地域農業開発研究協力計画	研究所運営管理	'94/10/4 ~'94/11/3	農環研 国立衛生試 北里大学
	ブラジル	アマゾン地域農業開発研究協力計画	組織培養	'94/10/31 ~'95/2/15	農業生物資源研究所
	ブラジル	アマゾン地域農業開発研究協力計画	植物生理(アイソザイム)	'94/9/25 ~'94/11/16	農業生物資源研究所 東北大学
	ブラジル	アマゾン地域農業開発研究協力計画	薬用植物	'94/8/14 ~'94/11/24	国立衛生試験場生薬部 北里大学
	メキシコ	メキシコ砂漠地域農業開発計画	作物学(1)	'94/5/30 ~'95/2/18	鳥取県園芸試験場 鳥取大
	メキシコ	メキシコ砂漠地域農業開発計画	作物学(2)	'94/5/30 ~'95/3/4	石川県砂丘地農試 鳥取大
	中国	北京蔬菜研究センター(F/U)	ハクサイ育種	'94/8/1 ~'94/12/21	野菜茶業試
	中国	北京蔬菜研究センター(F/U)	施設栽培	'94/8/1 ~'94/12/21	野菜茶業試
	中国	北京蔬菜研究センター(F/U)	種子生理	'94/8/1 ~'94/12/21	東京農大
農業開発調査課	アラブ首長国連邦	地下水農業開発計画	灌漑排水	'95/3/7 ~'95/3/26	視察型研修 (農水省事業所等)
	インドネシア	ギリランかんがい開発計画	灌漑開発・ダム	'95/1/30 ~'95/3/3	視察型研修 (農水省事業所等)
	インドネシア	ヌサンテンガラ地域小規模溜池農村開発計画	灌漑開発	'95/3/30 ~'95/4/21	視察型研修
	ヴェトナム	南バクドゥン・地区農村地域排水計画	灌漑排水	'94/10/11 ~'94/11/11	農業水理事務所 三祐コン サルタンツ+視察型研修 (農水省事業所等)
	ヴェトナム	南バクドゥン・地区農村地域	灌漑排水	'95/2/13 ~'95/11/24	TIATC「灌漑排水」

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
農業開発 調査課	エジプト	オモウム農村地域排水改良計画	排水計画	'94/10/11 ~'94/11/18	三祐コンサルタンツ+視察 型研修（農水省事業所等）
	エジプト	オモウム農村地域排水改良計画	排水計画	'95/2/26 ~'95/3/29	視察型研修（農水省事業所 等）
	カンボディア	ブノンベン周辺地域農村総合開発計画	灌漑排水	'94/10/10 ~'94/11/9	「灌漑排水C/P合同（第二）」
	コートジボアール	ヌジ川流域農村総合開発計画	灌漑排水	'94/11/24 ~'94/12/16	土地改良事業所 太陽コンサルタンツ
	ザンビア	ザンベジ川流域モンゴ地域農村開発計画	農業開発	'94/9/5 ~'94/10/14	視察型研修（農水省事業所 等）太陽コンサルタンツ
	ジンバブエ	ムニャティ川流域農業開発計画	灌漑排水	'95/2/27 ~'95/3/22	視察
	タイ	南部農地復旧保全計画	農地保全	'94/10/11 ~'94/11/13	農林水産省（研究所及び事業所視察）三祐コンサルタンツ他
	ドミニカ共和国	リモン・デル・ジュナ地域農業開発計画	水利計画	'94/7/18 ~'94/8/13	「灌漑排水C/P合同（第一）」
	トルコ	クチュク・メンデレス流域灌漑計画	灌漑排水	'95/3/30 ~'95/4/26	視察型研修（農水省事業所 等）
	ネパール	カトマンズ盆地灌漑改善計画	灌漑排水	'94/10/10 ~'94/11/2	「灌漑排水C/P合同（第二）」
	ネパール	テライ平野農業水資源開発計画	灌漑排水	'94/10/10 ~'94/11/2	「灌漑排水C/P合同（第二）」
	パキスタン	チャシュマ右岸揚水灌漑計画	灌漑排水	'94/11/6 ~'94/11/23	水資源開発公団 日本技研（株）
	フィリピン	バラワン南部農地開発計画	農業・農村開発環境保全	'94/9/6 ~'94/11/26	TICH「農業・農村開発環境保全」
	フィリピン	南部ルソン高地畑地かんがい計画	灌漑排水	'94/5/31 ~'94/7/23	TICH「農地水資源開発」
	ボリヴィア	サンタクルス県農産物流通システム改善計画	農産物流通	'94/8/1 ~'94/8/13	東京中央卸売市場等（視察型研修）
	マレーシア	小規模貯水池農業開発計画	小規模溜池開発技術	'94/10/10 ~'94/11/2	農水省（事業所視察）
	メキシコ	ハリスコ州海岸地域総合開発計画	農業開発計画	'94/9/28 ~'94/10/17	視察型研修（農水省事業所等）+協議（農開部）
	モンゴル	中部地域農牧業農村開発計画	農業農村開発計画	'95/2/15 ~'95/3/16	農用地整備公団（視察）農業開発調査課
	ルーマニア	ブランチュェア県北東部地域灌漑整備計画	灌漑排水	'95/1/17 ~'95/2/16	視察型研修（農水省事業所等）
	中国	広東省順徳市斉杏輪中地区農村地域排水計画	排水計画	'94/10/11 ~'94/11/17	農工研 太陽コンサルタンツ

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
農業開発調査課	中国	広東省順徳市斉杏輪中地区農村地域排水計画	排水計画	'95/2/26 ~'95/3/25	視察型研修（農水省事業所等）太陽コンサルタンツ
	中国	黒竜江国営農場典型区農村総合開発計画	灌漑計画	'94/9/18 ~'94/10/23	視察型研修（農水省事業所等）
農業技術協力課	イラン	カスピ海沿岸地域農業開発計画	稲作機械化	'95/2/20 ~'95/11/24	TIATC「農業機械化」
	イラン	カスピ海沿岸地域農業開発計画	灌漑排水	'95/2/13 ~'95/11/24	TIATC「灌漑排水」
	イラン	カスピ海沿岸地域農業開発計画	農業普及	'95/3/7 ~'95/3/30	視察型研修
	インドネシア	灌漑排水技術センター計画	灌漑排水技術	'94/10/30 ~'94/11/20	農水省地方農政局
	インドネシア	灌漑排水技術センター計画	灌漑排水技術	'94/10/30 ~'94/11/20	農水省地方農政局
	インドネシア	種子馬鈴薯増産研修計画	検査一般	'94/6/26 ~'94/8/11	横浜植物防疫所
	インドネシア	種子馬鈴薯増産研修計画	増殖・栽培一般	'94/11/20 ~'94/12/17	種苗管理センター
	インドネシア	種子馬鈴薯増産研修計画	増殖・検査技術	'94/7/24 ~'94/10/28	種苗管理センター（嬌恋）
	インドネシア	種子馬鈴薯増産研修計画	増殖栽培	'94/7/24 ~'94/9/17	種苗管理センター（嬌恋、北海道、雲仙）
	インドネシア	南東スラウェシ農業農村開発計画	農業普及と流通組織	'94/5/10 ~'94/9/15	TICH「農業普及指導者」+視察型研修
	インドネシア	南東スラウェシ農業農村開発計画	野菜生産普及	'95/2/27 ~'95/9/22	TIATC「野菜生産」
	ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	稲作	'95/2/27 ~'95/10/27	TIATC「米生産」
	ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	農業普及	'94/5/10 ~'94/7/31	TICH「農業普及指導者」
	ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	米生産	'95/2/6 ~'95/10/28	岩手県立農業短期大学
	ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	農業機械化	'95/2/20 ~'95/11/24	TIATC「農業機械化」
	コートジボアール	灌漑稲作機械訓練計画	ポストハーベスト	'94/10/11 ~'94/11/24	ヤンマー農機
コートジボアール	灌漑稲作機械訓練計画	灌漑排水	'95/2/13 ~'95/11/24	TIATC「灌漑排水」	
コロンビア	傾斜地域かんがい農業開発計画	水管理	'94/7/18 ~'94/8/30	「灌漑排水C/P合同（第一）」	

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
農業技術 協力課	コロンビア	傾斜地域かんがい農業開発計画	野菜栽培技術	'94/8/15 ～'94/9/30	視察型研修
	スリ・ランカ	ガンバハ農村総合開発計画	農業一般	'95/1/5 ～'95/1/25	国際農林水産業研究センター 地域農業改良普及センター
	スリ・ランカ	ガンバハ農村総合開発計画	畑作栽培	'95/1/5 ～'95/1/25	国際農林水産業研究センター 地域農業改良普及センター
	スリ・ランカ	ガンバハ農村総合開発計画	農業普及	'95/1/5 ～'95/1/25	国際農林水産業研究センター 地域農業改良普及センター
	スリ・ランカ	マハヴェリ農村総合開発計画	畑作	'94/7/18 ～'94/8/12	北海道植物遺伝資源センター 協和種苗
	スリ・ランカ	マハヴェリ農村総合開発計画	ポストハーベスト	'94/7/27 ～'94/9/16	日本車両、TIATC等
	スリ・ランカ	植物防疫所事業計画	空港検疫	'95/2/27 ～'95/3/29	横浜植物防疫所
	スリ・ランカ	植物防疫所事業計画	くん蒸剤の危害防止対策	'95/3/13 ～'95/5/24	横浜植物防疫所
	タイ	チェンマイ大学植物バイオテクノロジー研究計画	植物バイオテクノロジー	'94/10/18 ～'94/11/16	香川大学 三重大学
	タイ	チェンマイ大学植物バイオテクノロジー研究計画	バイオテクノロジー	'95/3/27 ～'95/10/4	香川大学
	タイ	チェンマイ大学植物バイオテクノロジー研究計画	環境要因と生化学制御	'94/10/4 ～'95/1/15	三重大学
	タイ	灌漑技術センター計画 (フェーズⅡ)	水管理	'95/3/27 ～'95/4/8	農業工学研究所
	タイ	灌漑技術センター計画 (フェーズⅡ)	水管理	'94/10/10 ～'94/10/25	水資源開発公団
	タイ	灌漑技術センター計画 (フェーズⅡ)	システムマネジメント	'94/10/3 ～'94/10/26	近畿農政局
	タイ	灌漑技術センター計画 (フェーズⅡ)	施設設計	'94/9/18 ～'94/10/12	水資源開発公団 山形県
	タイ	灌漑技術センター計画 (フェーズⅡ)	水質解析	'94/9/19 ～'94/11/4	農業工学研究所 青森県 茨城大学
	タイ	灌漑技術センター計画 (フェーズⅡ)	水利施設設計詳細	'94/9/18 ～'94/10/12	水資源開発公団 山形県
	タイ	雑草科学計画アフターケア	雑草科学	'94/10/11 ～'95/10/9	農業環境技術研究所 他感物質研究室
	タイ	雑草科学計画アフターケア	農薬の科学分析	'94/7/5 ～'94/12/27	筑波大学
	タイ	東部タイ農地保全計画	施工機械・施設管理(農業機械、施設管理)	'94/11/6 ～'94/12/2	大陽コンサルタンツ他

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
農業技術協力課	タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全	'94/11/6 ~'94/12/2	農林水産省(研究所及び事業所視察) 太陽コンサルタンツ他
	タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全	'94/11/6 ~'94/12/2	農林水産省(研究所及び事業所視察) 太陽コンサルタンツ他
	タイ	東部タイ農地保全計画	栽培・土壌改良(施工管理基準)	'94/11/6 ~'94/12/15	農林水産省事業所視察 太陽コンサルタンツ他
	タイ	東北タイ農業開発研究センターF/U	塩害土壌管理	'95/1/4 ~'95/3/3	東京大学
	パラグアイ	ピラル南部地域農村開発計画	プロジェクト運営	'95/1/22 ~'95/2/15	視察型研修(農水省事業所等)
	パラグアイ	ピラル南部地域農村開発計画	プロジェクト運営	'95/1/22 ~'95/2/15	視察型研修(農水省事業所等)
	パラグアイ	ピラル南部地域農村開発計画	プロジェクト運営	'95/1/22 ~'95/2/15	視察型研修
	パラグアイ	主要穀物生産強化計画	作物栽培	'94/5/16 ~'95/1/28	北海道農試
	パラグアイ	主要穀物生産強化計画	研究管理	'94/11/29 ~'94/12/14	農林水産省(各研究所)
	パラグアイ	主要穀物生産強化計画	大豆育種	'94/5/23 ~'94/12/22	東北農試
	パラグアイ	主要穀物生産強化計画	種子生産	'94/5/5 ~'94/12/22	北海道立植物遺伝資源センター
	パラグアイ	農牧統計強化計画	実測調査技術	'94/7/25 ~'94/9/4	農水省統計情報部
	パラグアイ	農牧統計強化計画	実測調査技術	'94/7/25 ~'94/9/4	農水省統計情報部
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学院フェーズII	園芸学	'94/8/18 ~'94/8/31	国際園芸学会口頭発表九州大学
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学院フェーズII	パソコン専任インストラクター	'94/4/21 ~'94/10/3	OIC「情報処理要員養成」
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学院フェーズII	園芸学	'94/8/18 ~'94/8/31	国際園芸学会口頭発表九州大学
	フィリピン	稲研究所計画	研究管理情報ネットワーク	'94/4/14 ~'94/8/27	農業環境技術研究所 沖縄セ「情報処理要員養成」
	フィリピン	稲研究所計画	農業経営研究	'94/7/4 ~'94/12/15	農研センター
	フィリピン	稲研究所計画	農業技術普及	'94/5/10 ~'94/7/31	TICH「農業普及指導者」
	フィリピン	稲研究所計画	病害防除	'94/6/7 ~'94/10/29	農業研究センター

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
農業技術協力課	フィリピン	稲研究所計画	農業機械評価	'95/2/27 ~'95/6/23	TIATC「農業機械評価試験」
	フィリピン	土壌研究開発センター	作物分析	'94/6/23 ~'94/10/5	農研センター
	フィリピン	土壌研究開発センター	土壌物理	'94/6/23 ~'94/10/5	四国農試
	フィリピン	土壌研究開発センター	土壌微生物	'94/9/20 ~'94/12/17	九州農試生産環境部土壌微生物研究室
	フィリピン	土壌研究開発センター	土壌調査	'94/5/10 ~'94/8/10	九州農業試験場
	フィリピン	畑地灌漑技術(国家灌漑庁)	視聴覚技術	'95/3/27 ~'95/5/4	(株)イワナシ
	フィリピン	畑地灌漑技術開発計画(フェーズⅡ)	畑作灌漑(プロジェクト運営管理)	'94/7/18 ~'94/8/10	「灌漑排水C/P合同(第一)」
	フィリピン	畑地灌漑技術開発計画(フェーズⅡ)	水管理	'94/5/9 ~'94/11/3	TIATC「水管理」
	フィリピン	畑地灌漑技術開発計画(フェーズⅡ)	野菜生産	'95/2/27 ~'95/9/30	農業研究センター-TIATC「野菜生産」
	フィリピン	畑地灌漑技術開発計画(フェーズⅡ)	灌漑排水	'95/2/20 ~'95/11/22	TIATC「灌漑排水」
	ブラジル	セラード農業環境保全研究計画	研究管理(土壌学)	'94/11/3 ~'94/11/26	北海道農試
	ブラジル	セラード農業環境保全研究計画	リモートセンシング技術	'95/1/16 ~'95/3/15	農業環境技術研究所
	マレーシア	マレーシア農科大学バイオテクノロジー学科拡充計画	酵素化学・培養工学	'94/4/12 ~'95/7/2	岡山大学
	マレーシア	マレーシア農科大学バイオテクノロジー学科拡充計画	酵素化学・生物反応プロセス	'94/4/12 ~'94/6/24	岡山大学
	マレーシア	マレーシア農科大学バイオテクノロジー学科拡充計画	植物遺伝子工学(酵素化学・分子生物学)	'94/10/3 ~'94/12/17	岡山大学
	マレーシア	マレーシア農科大学バイオテクノロジー学科拡充計画	機材操作	'94/10/31 ~'94/12/17	川西医科機械(株)
	マレーシア	マレーシア農科大学バイオテクノロジー学科拡充計画	機材操作	'94/10/31 ~'94/12/17	川西医科機械(株)
	ミャンマー	灌漑技術センター計画	水理模型実験	'94/4/21 ~'94/7/19	農業工学研究所
	ミャンマー	灌漑技術センター計画	灌漑排水	'95/2/20 ~'95/11/22	TIATC「灌漑排水」
	大韓民国	農耕地高度利用研究計画	土壌化学	'94/5/9 ~'95/3/31	北陸農試

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
農業技術協力課	大韓民国	農耕地高度利用研究計画	土壌病害	'94/5/9 ~'95/3/31	千葉県農試
	中国	河南省黄河沿岸稲麦研究計画	水稻栽培	'94/4/19 ~'94/10/26	農研センター
	中国	河南省黄河沿岸稲麦研究計画	土壌肥料	'95/3/29 ~'95/9/19	農業研究センター
	中国	河南省黄河沿岸稲麦研究計画	作物保護	'94/10/30 ~'95/4/24	農研センター
	中国	河南省黄河沿岸稲麦研究計画	水稻栽培	'95/2/27 ~'95/10/15	北陸農業試験場
	中国	灌溉排水技術開発研修センター	水管理	'94/5/9 ~'94/11/3	TIATC「水管理」
	中国	灌溉排水技術開発研修センター	灌溉排水・システム開発	'95/2/6 ~'95/4/29	視察型研修（農水省事業所等）
	中国	灌溉排水技術開発研修センター	灌溉排水	'95/2/20 ~'95/11/22	TIATC「灌溉排水」
	中国	灌溉排水技術開発研修センター	灌溉排水・システム開発	'95/2/15 ~'95/4/29	パスコインターナショナル
	中国	農業機械修理技術研修計画	農業機械修理技術	'94/7/4 ~'94/7/24	農水省農業技術研修館
	中国	農業機械修理技術研修計画	故障診断計測技術	'94/8/29 ~'95/2/28	農業技術研修館 クボタ、イセキ
	中国	農業機械修理技術研修計画	故障診断計測技術	'94/8/29 ~'95/2/28	農業技術研修館 クボタ、イセキ
	中国	農業機械修理技術研修計画	農業機械整備・修理	'95/1/5 ~'95/4/5	農業技術研修館
	派遣第一課	インドネシア	個別専門家（菅谷 晋）	水管理計画	'94/9/13 ~'94/10/8
インドネシア		個別専門家（西村 功） （農業機械）	農業機械	'95/3/27 ~'95/7/2	東京大学
タイ		個別専門家（木村 和夫） 専門家	水管理	'94/10/10 ~'94/10/25	水資源開発公団
フィリピン		個別専門家（井口 尚樹） （農業訓練・普及）	農業普及	'94/5/10 ~'94/7/31	TICH「農業普及指導者」
フィリピン		個別専門家（加藤 成一）	農業協同組合	'94/5/11 ~'94/7/22	「農業協同組合Ⅱ」
フィリピン		個別専門家（柴田 寿夫） （農業（稲作））	稲作	'95/2/27 ~'95/10/27	TIATC「米生産」

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先	
派遣第一課	フィリピン	個別専門家(小倉 一雄)	残留農薬	'94/10/4 ~'94/12/20	農薬検査所(財)残留農薬 研究所他	
	フィリピン	個別専門家(石田 武士)	灌漑排水	'95/2/20 ~'95/11/22	TIATC「灌漑排水」	
	フィリピン	個別専門家(長岡 明) (農業研究開発)	農業研究管理	'94/9/26 ~'94/10/19	視察型研修	
	ラオス	個別専門家(大嶋 健男) (農業技術)	農業普及	'95/3/7 ~'95/3/30	視察型研修	
派遣第三課	アラブ首長国 連邦	個別専門家(三好 洋) (乾燥地農業)	乾燥地農業	'94/7/11 ~'94/8/30	筑波大学 静岡大学	
	エジプト	園芸バイオテクノロジー (研究協力)	園芸バイオテクノロジー	'94/10/30 ~'94/11/27	視察型研修 広島大学	
	エジプト	園芸バイオテクノロジー (研究協力)	園芸バイオテクノロジー	'94/10/30 ~'94/11/11	視察型研修 広島大学	
	ガーナ	灌漑農法開発(ミニプロ)	農業機械	'95/2/24 ~'95/11/24	TIATC「農業機械化」	
	ケニア	個別専門家(谷 宏則) (灌漑)	水管理	'94/5/9 ~'94/11/3	TIATC「水管理」	
	ザンビア	個別専門家(森永 繁治) (営農)	農業普及	'94/5/10 ~'94/7/31	TIATC「農業普及指導者」	
	タンザニア	バガモヨ灌漑農業開発 (ミニプロ)	水管理	'94/5/9 ~'94/11/3	TIATC「水管理」	
	タンザニア	ミオンボウッドランド農業 生態総合研究(研究協力)	作物栽培学	'94/8/22 ~'94/12/21	京都大 宇都宮大	
	派遣第二課	アルゼンティン	野菜生産技術センター (ミニプロ) 平井 靖	野菜栽培	'95/3/20 ~'95/9/16	北海道立十勝農業試験場
		エクアドル	個別専門家(加藤 親吾) (灌漑排水システム)	灌漑排水システムⅡ	'95/2/26 ~'95/3/25	視察型研修 (農水省事業所等)
ドミニカ共和国		果樹園芸(ミニプロ)	果樹栽培(果樹病害)	'94/8/29 ~'94/12/21	果樹試験場	
ネパール		個別専門家(村山 昇) (材料試験) 個別専門家(佐藤 清)	材料試験(コンクリート)	'94/9/19 ~'94/12/1	農水省構造改善局	
パキスタン		野菜種子生産	野菜種子生産	'94/10/30 ~'94/11/12	千葉県原種農場 渡辺探種 場	
パラグアイ		トマト害虫防除 (研究協力)	野菜害虫防除	'94/9/5 ~'94/11/19	野菜茶業試験場(旧)日本植物 防疫協会	
パラグアイ		個別専門家(小野木静夫) (病害防除)(及び後任者)	糸状菌分類	'94/10/20 ~'95/3/31	四国農業試験場 日本電子 東京農大	

担当原課	国名	プロジェクト名	研修科目	受入期間	研修先
派遣第二課	バングアイ	個別専門家(杉目 直行及び後任者)(野菜試験研究)	野菜栽培・普及	'94/10/3 ~'94/12/22	千葉県暖地園芸試験場
	バングラデシュ	農村開発実験(研究協力)	農村開発	'95/2/1 ~'95/3/18	国立婦人教育会館 お茶の水大学
	バングラデシュ	農村開発実験(研究協力)	農村開発	'95/3/30 ~'95/6/9	野菜茶葉試験場
	ブラジル	個別専門家(吉田 義雄) (リング台木選定)	リング台木育種	'94/5/5 ~'94/7/12	果樹試験場盛岡支場
	ボリヴィア	個別専門家(小寺 義郎) (果樹栽培)	果樹栽培	'94/8/29 ~'94/12/21	果樹試験場
	メキシコ	基礎的養蚕技術 (ミニプロ)	桑栽培及び桑園の土壌肥料	'94/4/4 ~'94/10/8	蚕糸昆虫技術研究所
個別研修員受入れ総数			243名		

JICA